

高教研年報

第 62 号

令和 4 年度

新潟県高等学校教育研究会

令和4年度各部会事業報告

1 国 語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2 地理歴史・公民・・・・・・・・・・・・・・・・	2
3 数 学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
4 理 科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
5 芸 術・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
6 英 語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
7 農 業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12
8 工 業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	17
9 商 業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	24
10 水 産・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	26
11 家 庭 科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	27
12 保 健 体 育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	30
13 情 報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	31
14 生 徒 指 導・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	32
15 函 書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	33
16 視 聴 覚・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	34
17 定 通・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35
〈研究会一覧〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	36
令和4年度 理事会（書面審議）録・・・・・・・・	79
令和4年度 活動から・・・・・・・・・・・・・・・・	80
令和4年度 収入支出決算書・・・・・・・・	81
令和4年度 役員・・・・・・・・・・・・・・・・	83
（ 理事・会計監査委員・ 委員・部会幹事および部会会員数・事務局幹事 ）	
新潟県高等学校教育研究会規約・・・・・・・・	86
令和4年度事務局日誌抄・・・・・・・・	90
編集後記 幹事・・・・・・・・・・・・・・・・	91

巻頭言

令和4年度高教研年報の刊行によせて

新潟県高等学校教育研究会会長
(新潟県立新潟南高等学校長)

勝山 宏子

新潟県高等学校教育研究会は、新潟県の高等学校教育を振興発展させることを目的として昭和23年(1948年)に設立され、永きにわたり本県の後期中等教育に携わる教職員の研究・研修活動の一端を担ってまいりました。3年前に突如世界に蔓延した covit-19 により、学校の教育活動はもとより、本研究会も多大なる影響を受けました。そうした影響が少なからず続く中、各部会の皆様には、今年度も様々な工夫をこらし、事業の充実に努めていただきました。このことに改めて感謝申し上げます。

今年度は新たに設立された「情報部会」を加え、17の部会体制で新潟県高等学校教育研究会の活動を行いました。

今年度も、各部会共通目標として以下の2つを掲げました。

- 1 全ての生徒が共通に身に付けるべき資質・能力の育成 <共通性の確保>
- 2 多様な学習ニーズへのきめ細やかな対応 <多様化への対応>

これらについては、今後も引き続き当会の研修目標の柱として受け継いでいきたいと考えております。

さて、既にご承知のとおり、教員免許更新制の発展的解消に伴う新たな研修制度として、令和5年度から「研修履歴の記録の作成」と、当該履歴を活用した資質向上に関する校長等による「対話に基づく受講奨励」が実施されます。社会が大きく変化する中で、我々教職員にはこうした変化にも対応できるように、常に学び続ける姿勢や変化を前向きに捉え、主体的に学ぶことが求められます。対話に基づく受講奨励制度では、教職員自らの主体的な学びのマネジメントを実現することが期待されており、教職員各自で自己の強みや補うべき力を見定め、効果的な研修を行っていくこととなります。高教研における研修は、校種を超えて、日常的に接する機会が少ない様々な学校の教職員とともに学ぶ貴重な機会であり、このことを通して、自らの教育実践を振り返り、自らの経験を再構成し、教職員として成長していく、またとない学びの場となりうると考えています。こうしたことから、これまで以上により多くの方々から当研究会に御参加いただき、学びの場が広がることを願っております。

来年度もこれまで各部会で取り組んでいただいていた主体的・対話的で深い学びに向けた研修を継続・発展させるとともに、当会が新潟県の高等学校教員による教育研究の場として、益々実り多きものとなるよう運営してまいりますので、会員の皆様におかれましては、これからも引き続き御協力を賜りますようお願い申し上げます。

国語部会

1 運営委員会

第1回運営委員会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、書面審議として6月に実施しました。内容は令和3年度の事業報告、決算報告、令和4年度の事業計画と全県研究協議会について審議しました。全県研究協議会は、オンライン研修会として、具体的な実施方法を検討することにしました。13名の役員、地区委員から書面審議の回答があり、審議内容が承認されました。

1月末に開催を予定していた第2回運営委員会は、寒波による荒天の影響が懸念されたため書面審議としました。令和4年度の事業報告、決算報告、令和5年度の事業計画等について協議し、13名の運営委員から回答をいただき、審議内容が承認されました。

2 全県研究協議会準備委員会

- (1) 日時 令和4年11月11日(金) 16:30～16:50
- (2) 会場 県立燕中等教育学校 会議室
- (3) 内容 全県研究協議会の実施方法について
- (4) 参加者 国語部会役員5名

3 全県研究協議会

- (1) 日時 令和4年11月16日(水) 13:00～15:30
- (2) 形態 オンラインによる全県研究協議会
(主会場 県立燕中等教育学校)
- (3) 参加者 46名
- (4) テーマ「新学習指導要領を踏まえた授業づくり～主体的・対話的で深い学びの実践を目指して～」
- (5) 実践発表
長岡大手高等学校 藤巻 仁実 教諭
「小説の主題に関わる生徒の深い思考を引き出す試み」～現代文B「舞姫」の指導を通して～
- (6) 指導講評
県立教育センター指導主事 近藤 崇 様
- (7) 講演
講師：新潟大学人文学部教授 磯貝 淳一 様
「『言語文化』をどう学ぶか」～随筆の歴史から考える～

(8) 研究協議

藤巻教諭の実践発表に対して、とても参考になった旨の感想が多く寄せられ、充実した内容となりました。授業の様子を動画で提示する場面では、発表者が丁寧に説明を加えながら、データの音声小さい状況を補う形で対応してもらい、スムーズに進行できました。

指導主事の近藤崇様には、協議会運営等に関して助言をいただき、研究協議会当日も指導講評をいただきました。感謝申し上げます。

研究協議会の講演会は、昨年度のご講演が大変好評であった、磯貝教授に今年度もお引き受けいただきました。新学習指導要領の趣旨を確認しつつ、「枕草子」や「徒然草」等を具体例に「言語文化」における随筆教材の捉え方等をとおした、思考力・判断力・表現力の育成のあり方について大変示唆に富んだ内容であり、貴重な講演会となりました。



今回も昨年同様、発表者・指導者・講演者が会場校に集まり、全県に配信する形態としました。講演会や、実践発表の充実した内容、的確な指導講評をいただき、会員の皆様からいただいた感想のとおりに充実した内容となったと思います。時間の関係もあり、参加者から積極的な発言をいただけなかった点は、意見交換・交流という観点で課題と感じました。会員皆様からご意見をお寄せいただき、今後の活動に活かしていきたいと考えます。

4 刊行物

「国語研究」第69集では、6名の方から寄稿がありました。今後の活動の更なる活性化に向け、感謝とともに期待しているところです。令和4年度の事業にご理解・ご協力をいただいた皆様に感謝申し上げます。

地理歴史・公民部会

1 総会

期 日 令和4年7月1日(金)
会 場 新潟高校視聴覚ホール
議 事 (1) 令和3年度事業報告
(2) 令和3年度決算報告
(3) 令和4年度事業計画
(4) 令和4年度予算計画

2 研究協議会

期 日 令和4年7月1日(金)
会 場 新潟高校視聴覚ホール
発 表 『『地理総合』における観点別評価について』
発表者 中野 理恵 教諭 (長岡明德高校)
講 演 『『地理総合』で育む資質・能力とその評価』
講 師 吉水 裕也 様 (兵庫教育大学副学長)
参加者 42名

講演では、新必修科目「地理総合」を地理が専門ではない教師が担当する可能性を視野に、問いの設定のポイントと評価の方法、特にPBL (Project/problem based Learning)とパフォーマンス評価についてご指導をいただいた。

3 地理研究会・巡検

期 日 令和4年8月9日(火)
会 場 長岡高校栖風会館他
当番校 長岡明德高校
協力校 小千谷高校・長岡高校
テーマ 「歴史と未来をつなぐデザイン
～長岡のものづくり・人づくり～」
講 師 鈴木 正人 様 (株式会社大原鉄工所
技術・製造本部製造管理部部長)
星野 正夫 様 (味噌星六店主)
参加者 13名

長岡市に本社を置く株式会社大原鉄工所の環境事業・車両事業に関する講話、生ごみバイオガス発電センターの見学、撰田屋地区の散策、味噌星六の訪問を行った。

4 地理歴史研究会

期 日 令和4年11月18日(金)
会 場 県立歴史博物館
当番校 新潟向陽高校
テーマ 午前の部 ※県立歴史博物館と共催
「越後国郡絵図を用いた授業」
午後の部
「『地理総合』・『歴史総合』1年目の取組」
講 師 田中 聡 様 (長岡工業高等専門学校教授)
前嶋 敏 様 (県立歴史博物館専門研究員)
福原 圭一 様 (上越市公文書センター学芸員)
発表者 酒井 未来 教諭 (小出高校)
吉田 行香 教諭 (西新発田高校)
中村 崇志 教諭 (新潟向陽高校)
参加者 34名

第1部では、東京大学史料編纂所から新潟県立歴史博物館に寄贈された「越後国郡絵図」(複製版)を活用した授業について研究した。参加者は絵図を読み解き高校の授業における活用の仕方を検討した。絵図は研究会出席者の所属校へ寄贈された。第2部では、令和4年度から始まった新科目「地理総合」「歴史総合」の授業担当者による実践発表と議論を行った。研究会は地理専門、歴史専門、公民専門の垣根を越え社会科教育を議論する有意義な場となった。

5 企画委員会

○第1回企画委員会
期 日 令和4年7月1日(金)
会 場 新潟高校
○第2回企画委員会
期 日 令和5年1月31日(火)
会 場 新潟向陽高校

6 刊行物

『地理歴史・公民研究』第61集
(令和5年3月末日発行)

数 学 部 会

1 全県研究会

(1) 数学教育研究会

期 日 令和4年7月7日(木)

場 所 新潟テルサ

講 演

演 題 「データサイエンス及び最適化手法で必要とされる数学について」

講 師 新潟大学理学部理学科

数学プログラム 教授 山田 修司 様

研究発表

テーマ 「新潟大学入学試験問題(数学)の分析について」

発表者 新潟南高等学校 教諭 小武 鉄平

参加者 76名

(2) 全県研究協議会

期 日 令和4年10月18日(火)

場 所 アトリウム長岡

講 演

演 題 「新学習指導要領とICT機器を活用した授業改善」

講 師 東京学芸大学ICTセンター

教授 森本 康彦 様

研究発表

全体テーマ 「ICTを活用した授業実践」

・発表①

テーマ 「ICTを活用した授業実践」

発表者 堀之内高等学校 教諭 逸見 紘一

・発表②

テーマ 「全iPad 黒板化計画」

発表者 小出高等学校 校長 南方 伸之

参加者 69名

2 地区研究会

・上越地区研究協議会

期 日 令和4年11月28日(月)

場 所 柏崎市文化会館アルフォーレ

講 演

演 題 「授業に活かす学習評価～観点別評価から『深い学び』をつくるには～」

講 師 上越教育大学大学院

准教授 河野 麻沙美 様

研究発表

テーマ 「観点別評価と授業改善」

発表者 直江津中等教育学校 教諭 中條 彩

参加者 62名



〔上越地区研究協議会〕

〔上教大・河野先生のご講演〕

3 会議

・代議員会

期 日 令和4年度7月7日(木)

場 所 新潟テルサ

議 題 (1) 令和3年度事業・決算報告

(2) 令和4年度事業・予算案審議

出席者 74名

4 広報・研究成果の刊行

(1) 令和4年度数学部会会員名簿の作成

(2) 「数学教育研究集録」第61号の刊行

理科部会

1 役員会

【1】第1回役員会

- 1 期 日 令和4年7月21日(木)
- 2 会 場 Web会議
- 3 参加者 22名
- 4 議 題 R3事業報告 決算報告
R4事業計画 予算案
役員改選 その他

【2】第2回役員会

- 1 期 日 令和5年2月1日(水)
- 2 会 場 Web会議
- 3 参加者 20名
- 4 議 題 R3事業報告 決算報告
R4事業計画 予算案

その他

2 研究会

【1】物理教育研究会

- 1 期 日 令和3年11月17日(木)
- 2 実施形態 オンライン研修
- 3 参加者 13名
- 4 講 演

「アメリカの物理教育研究の紹介」

香川大学 教育学部

学校教育教員養成課程

教授 笠 潤平 様

- 5 研究発表・協議

「『思考力、判断力、表現力等』を見取るための試み」

新潟中央高等学校 本田 崇

【2】化学教育研究会

- 1 期 日 令和4年12月16日(金)
- 2 会 場 新潟県立植物園 研修室
- 3 参加者 15名
- 4 講 演
「海洋教育の必要性とその化学的アプローチ」
東京海洋大学 海洋資源環境学部
准教授 淵田 茂司 様
- 5 研究発表・協議

「Opp シートの活用実践報告 『化学』
熱化学～無機化学の単元において」

新津高等学校 尾崎 巧

「ICTを活用した遠隔補習をとおして感じたこと」

長岡明德高等学校 北畑 雄一郎



化学研究会の様子

【3】生物教育研究会

- 1 期 日 令和4年11月14日(月)
- 2 会 場 三条東高等学校セミナーハウス 1階研修室
- 3 参加者 21名
- 4 講 演
「新たな一次産業の扉を開く～魚が野菜を育てるアクアポニックス農法～」
(株)プラントフォーム
代表取締役 CEO 山本祐二 様
- 5 研究発表・協議

「菩提寺山のヒゴスミレ保全活動」

新津高等学校 石澤 佳代

【4】地学教育研究会

- 1 期 日 令和4年12月9日（金）
- 2 会 場 長岡大手高等学校 済美会館
研修室
- 3 参加者 11名
- 4 講 演

「化石を扱う古生物学: あの手この手で絶滅生物のふるまいを復元したい」

新潟大学理学部

准教授 椎野 勇太 様



地学研究会の様子

芸術部会

1 総会（書面審議）

新型コロナウイルス感染防止対策により書面審議とした。大多数の賛成回答をもって承認された。

議 事

- 1 令和3年度事業報告
- 2 令和3年度決算報告
- 3 令和4年度役員案、会員数
- 4 令和4年度事業計画案
- 5 令和4年度予算案
- 6 今年度の芸術部会事業について

2 芸術科研究協議会・分科会

- 1 日 時 令和4年度11月14日（月）
13：20～16：00
- 2 会 場 長岡グランドホテル
「悠久の間（北）」
アオーレ長岡ナカドマ
- 3 日 程 ◇実践報告及び研究協議
◇講演会
「響生～異質のモノの同士が
響き生かし合う世界を求めて～」
講師 書芸家 平野壯弦 氏
◇平野壯弦 氏による
書芸アートパフォーマンス
&ワークショップ

十日町市で生まれた平野壯弦氏は、新潟大学教育学部を卒業し、いったんは中学校の英語の教員として勤めたが、幼少期から親しみ大学時代に没頭した書の道に進むことを決意し、30歳で教員を辞し商業カリグラファーへと転身、現在は東京都にて「SOGEN 書藝塾ARC」を主宰、十日町のご実家とも行き来しながら活動されている。

筆の書線が生み出す命のリズム、心や魂の有りようを形にする「書芸」を創始提唱し、

書芸術を現代に活かし世界の人々の心を繋ぐことをテーマに、幅広い活動を展開、2002年 FIFA ワールドカップ日韓戦公式ポスター並びに公式エンブレム毛筆バージョン作品は大変有名な代表作のひとつである。

ご講演野の中では、AI時代に人間が考え、動き、生きる意味について、「あらゆる学問、芸術が、分野や手法は違えども、宇宙の心理と美を探り求めている点では同じである。また、AIも及ばない直感力によって、未知なる宇宙の真理と美を探り求める芸術の存在意義を語られ、この困難な耳朶に思春期の若者たちに芸術の素晴らしさを伝え、共に成長していく先生たちに敬意を表させていただきます。」とお話された。

また、「筆線は、いのち、こころ、魂の現れ。その筆線をもって、言葉、人種、宗教、思想信条等の違いを超えたところで互いに響き生かし合う中で、宇宙の真理と宇宙的調和の美世界を探り求めていく先に、人類の幸福があると信じます。」との言葉が力強く、書芸家 平野壯弦氏にすっかり魅了され、充実した時間を過ごすことができた。

本イベントは、芸術部会が数年おきに企画することとしている講演会等として実施した。芸術科教員である会員が科目の専門を超えて芸術体験の幅を広げることで、生徒の学びにつながるものと考えている。



分科会

<音楽科>

○新しい評価について情報共有を行う。

<美術・工芸科>

中越高等学校 北村 和則

「塗らぬなら塗らせてみよう反対色」

～水彩画を指導するにあたって～

数々の授業実践を指導する際の核となる色彩理論を実践で示したデモンストレーションであった。スケッチブックに筆、絵の具、ぞうきんなどを用いて絵の具の乾燥前の混色、濁り具合、拭き取った際に生じる紙の白さの透明感など、リンゴ、そして手の描写が行われた。

「混色の失敗の経験が色彩感覚を育む。」

→「色の経験値を増やす」ことにより使いこなすことのできる色数も増えていく。



豊栄高等学校 片桐 泰典

(オンライン発表)

「新潟市豊栄地区の中学校、高校紹介」

該当地区の中学校から映像等の提供を受け、豊栄高校の芸術コースの生徒が編集し、YouTubeで公開している作品の制作工程を紹介していただいた。中学校との交流の中でICT教育への取り組みの差異、芸術コース選択者が参画できる活動の発表であった。2022新潟県文化祭という形で現在でも配信が行われている。



義務教育との連携に加えて、他教科との連携も視野に入れて授業計画を進めているという発表であった。

<書道科>

○各学校の現状報告や評価について情報共有を行う。

■美術・工芸科研究協議会

日時 8月22日(月)13:30~16:00

会場 県立小千谷西高校

内容 「2025新潟大会準備検討会」

参加者 10名

【内容】

○自己紹介

○資料確認

・2025新潟大会までの見通しについて

○大会日程について

・足掛け3日をベースに0次案のたたき台を提示(今後の情勢を見ながら2日日程の変更もありうる)

・候補①上越市「オーレプラザ」

・候補②長岡市「アオーレ長岡」

○テーマ、分科会について

・「源流そして実りへ」

源流、実りの2本を中心に分科会を展開してはどうか。

・講演は画家の池田学氏を予定

○外部機関との連携

・上越教育大学との連携

・小林古径美術館との連携

○団体について

・コンベンション協会と協同して、土産品の検討など

○本日の参加者を6の部局（事務局・総務部・研究局・事業部・財政部・編集部）に割り振り、全会員に必ず役に入ってもらおう。

■書道科研修会・研究協議会

期 日 令和5年2月1日（水）

会 場 新津南高等学校 書道教室

講 師 奈良墨作り職人 長野 陸 氏

内 容 オンライン握り墨作り体験
研究協議

参加者：7名

【内容】

高教研芸術部会 小堺部長（県立新津南高等学校校長）による開会の挨拶の後、奈良の伝統産業、墨づくりを営む「錦光園（きんこうえん）」七代目の職人、長野 陸 氏からオンラインによる墨の解説と、墨作り（にぎり）体験をした。

墨の産地、墨の歴史（中国）墨の歴史（日本）墨の制作工程、墨の材料について等のお話の後、普段公開していない制作現場も生中継のように案内して下さった。また、実際に墨をつくる様子も見学した。



その後、事前に届けられた「体験キット」の墨の原材料である生の墨を使用し、生墨の温かさ・柔らかさを感じ、長野 氏のご指導を受けながら生墨を捏ねて空気を抜き、泥団子状のように丸め、棒状に伸ばし、手のひらの中に包み指の跡をつけ「世界で一つしかない墨」をつくっていった。



最後は、上手に乾燥させ割れを防ぎ完成させていくことが大事とのこと、つくった墨は、桐箱に入れ蓋をした。タンスの中などに保管すると良いそうである。





試行錯誤しておられ、また、書の楽しみ方を提案されるなど、墨の奥深さや魅力を多くの人に伝えたいという強い思いを感じた。

今回の研修は、オンライン実習であり、書道の授業での ICT 活用の可能性が広がるものであった。それぞれの勤務校に戻り、すぐに授業実践できる内容であった。

参加者はそれぞれが作った「世界で一つしかない墨」に大変満足し、乾燥を終え完成した墨を来年度の総会に持ち寄り、皆で鑑賞しましょうとの声も上がり、有意義で充実した研修会となった。

<研究協議>

- 来年度の書道研修会について
鑑賞を行う。「良寛」の書を見学予定。
- 全高書研の参加について
2026年度の北信越ブロック参加について
- 旅費について



質疑応答では、

「墨は保存方法によって色が変わると言う人がいるが、本当か？」

「『固形墨』を混ぜて使用する人もいるが、それでもかまわないか？」

「墨の原料である膠について詳しく知りたい」

「青墨の作り方などについて知りたい」

などの多くの質問に対し、松煙墨の煤について、青墨というのは粒子の大きさにより青色に見える、などについて丁寧に教えていただいた。

長野氏は、日本の伝統文化を守るために、和菓子の木型、迦楼羅・呉女・力士の型を用いた香り墨やおはじき墨など、意匠に創意工夫され、

英語部会

1 研修会

今年度は、昨年度に引き続き、オンラインで夏季研修会と全県英語科研究協議会を実施した。また、初の試みとして、今年度から契約しているズームを活用し、上英研主催の研修に高教研のズームを提供し、上英研と共催する形でオンラインと参集を併用するハイブリッド型の研修を実施することができた。

1) 夏季研修会

①実施日

8月17日(水) 13:30~16:30

②参加者

28名

③実践発表

万代高校教諭 高田哲也

巻高校教諭 鈴木啓

④内容

万代高校における3学年の指導と評価の実践について、高田教諭が紹介した。その後、その実践を「新課程に置き換えるとしたら」というテーマに基づき、巻高校鈴木教諭が新学習指導要領に関する知見を参加者に提供した上で、協議を行った。このような展開のお陰もあり、現1学年担当者だけでなく、現2、3学年担当者が今できそうなことを知るきっかけになり、実りのある時間になった。アンケートでは、「参加してよかった」が95%を超え、盛況裡に終わった。

2) 全県研究協議会

①実施日

11月10日(木) 13:30~16:50

②参加者

40名

③講師

新潟大学 松沢伸二先生

『新課程における指導と評価の実践』

⑤内容

講師の松沢先生から新学習指導要領の指導と評価について、海外の事例も踏まえながら、大変示唆に富むご指導をいただき、評価の在り方に悩む先生方にとって、方向付けと勇気付けをいただけるような実りある機会になった。

質疑応答の時間でも、現場の先生方の質問や悩みに対して松沢先生が丁寧に対応してくださり、参加者アンケートでは「参加して良かった」が94%を超え、こちらも大変盛況に終わることができた。

3) 上英研・高教研共催による英語教育研究会

①実施日

2月2日(木) 12:30~16:50

②参加者

63名

③講師

中央大学 栗原文子先生

明星大学 清田洋一先生

④実践発表

高田高校教諭 長谷川誠

④内容

長谷川教諭による研究授業の後、高田高校1学年の取り組みが紹介され、栗原先生、清田先生、当日新課程の授業視察で来校されていたブリティッシュ・カウンシルトレーナーのロビン・スキプシー先生から指導・講評をいただいた。

新課程における実際の授業や実践事例に基づいて指導・講評が成され、今後の実践に役立つ多くのヒントを共有できる実りある機会になったが、オンライン環境が不安定な場面があり、その点は今後の課題として残った。

2 刊行物

「高教研英語部会誌 第 67 号」を刊行。

(内容)

- ・研修会報告
- ・実践報告
- ・その他

(文責 長谷川 誠)

農 業 部 会

1 令和4年度

新潟県高等学校農業教育研究大会

新潟県立高田農業高等学校

【大会スローガン】

「持続可能な未来のために、社会課題に関心を持つ子どもたちを育てよう」

1 目的

北信越5県の農業関係高等学校の教職員が新潟の地に集い、農業教育の当面する課題について研究協議し、農業教職員の資質の向上と併せて農業教育の振興発展に資する。

2 日程

第1日目 8月4日(木)

12:00~12:50 受付

13:00~13:50 開会式

14:00~16:40 研究協議

「生産経営系分科会・環境創造系分科会・資源活用系分科会」

第2日目 8月5日(金)

8:30~8:40 受付

8:40~9:50 総会

10:00~11:30 講演会

演題

「発酵くらしくまざる、つながる、うまれる」

創業1548年 撰田屋の酒蔵「吉乃川」の取組

講師 ミライ発酵本舗株式会社 斎藤篤 様

吉乃川株式会社蔵元 川上麻衣様

11:40~12:10 指導講評

12:10~12:30 閉会式

3 研究協議

1) 生産経営系分科会

「SDGsとGLOBAL G.A.P継続認証へ向けての実践教育」

長野県富士見高等学校

教諭 寺澤 泰幸

(発表概要)

本校は創立96年。高原野菜、花卉、稲作が盛んな地域である。野菜・食品コース、草花・植物コース、機械環境コースで生徒が学んでいる。農業クラブ活動が盛んで、バイテク部や養蜂部が活動している。2018年3月29日、全国で6番目にトマトで、オリンピックに提供する食品として、また、輸出を考えてGLOBAL G.A.P認証を取得した。今年度は野菜・食品コース12名で継続取得を目指した。実施内容としてはIPM(①予防、②判断、③防除(総合的病害虫管理))を実践した。あらゆる手段を用いてがんばり、夢は諦めなければ叶う事を実感した。これからの計画として県内の農業法人とG.A.Pについて農業交流を実施する予定である。

にいがたこれらG.A.P継続認証の実践教育において、主体性、規律性、創造力、発信力、コミュニケーション能力が身についた。

2) 環境創造系分科会

「専門分野を探究する農業教育を目指して」

新潟県立加茂農林高等学校

教諭 山田 隆一

(発表概要)

本校は1903年に新潟県立農林学校として創設された。4クラス規模で2学年次より各学科・コースに分かれて学習する。1学年次は農業科として括られているため1年間を通しての専門学習が出来ない状況にある。このため農業の各専門教育の中身が薄れていく現状だが、生徒が将来的に選択した専門学習を活かした進路を目指すよう心がけている。専門学習の取組とその成果について、①現場見学会(アウトプット型)では、国の行政機関等(ダムなど)の見学を実施している。②仕事講座(インプット型)については、本校環境緑地科卒の北陸農政局等職員による業務説明会の実施、進路意識

啓発活動を行った。③文部科学省 SPH 事業で「ICT 導入による教育活動」を実施した。これまでの取組から卒業生との関係の重要性、産官学、三位一体の取組を継続的に行うことの大切さ、農業クラブ活動がもたらす教育効果の再認識ができた。専門教育内容をさらにブラッシュアップさせ、地域から必要とされる職業人の育成に努めたいと思う。

3) 資源活用系分科会

「HACCP に基づく衛生管理」における実践的教育

石川県立翠星高等学校
教諭 西前 辰郎

(発表概要)

今年で創立 146 年、1 学科 3 コース、1 学年定員 200 名の単位制の高等学校である。食品科学コースでクッキー製造ライン JFS-B 規格を令和 2 年に取得した。生徒は 3 年間で卒業するので継続が大切であるため、同じクオリティーで指導している。今後の指導方針として、① HACCP の意義を伝える。②みんなでルールを作り、遵守すること。③HACCP とは考え方だということ。とした。意識が向上し、PCDA サイクルの実践ができ、「主体的で対話的な深い学び」に準じる学びができた。また、POP を今年始めて生徒自身が作成し、その効果を実感した。その他、重大事故管理訓練を実施し、食品事故に対応できるよう、日々学習活動を行っている。

3 講演会 (概要)

演 題

「発酵くらしくまざる、つながる、うまれる」

講師 ミライ発酵本舗株式会社 斎藤篤 様

ミライ発酵本舗で「発酵」をキーワードに街づくりをしている会社です。街づくりに当たっては、やはりローカルな地域性を最大限に活かして発出していきたくて考えています。そのため地域社会に存在する資源を受け入れ、リスペクトして、そしてそれらを表現することがこれ

からの街づくりにおけるトレンドになると思います。

私たちの活動は発酵のプロセ

スのように「まざる・つながる・うまれる」といっており、それを難しくいうと「共生・循環・協創」の表現につながります。地域の若手の蔵元さん、若手のステークホルダーによって宮内・摂田屋メソッドという新たな事業体が創設しました。宮内駅を拠点として、クリアデザイン、それからコミュニティーデザインをしていく団体です。発酵のプロセスを通じて、日本酒、味噌・醤油の価値を高め、その高いということを多くの人たちに知ってもらうために街を歩いてもらい、そして若い起業家がこの街の中で群発できるようにする事業体です。そして、この事業体は数年後には日本国内において、発酵・醸造の文化を発出する拠点となり、そして、世界にその発酵の文化を発出する拠点となるように事業を進めていきたいと思っています。

演 題

創業 1548 年摂田屋の酒蔵「吉乃川」の取組

講師 吉乃川株式会社蔵元 川上 麻衣 様

長岡は真ん中に大河信濃川が流れ、周りを山で囲まれたいわゆる盆地です。この盆地が冬場は雪一面に覆われた銀世界に変わります。この雪はお酒に関して非常に大切で、この雪解け水が信濃川の伏流水となり、その恩恵によってお酒造りができています。長岡は、江戸時代長岡藩の城下町として栄えた街で、牧野様が藩を治めており、非常に商業が発達した街でした。その中で有名な家老がいました。北越戊辰戦争で長岡藩を率いて戦った“最後のサムライ”河井継之助です。継之助が、本陣を設けたのが摂田屋の光福寺でした。戦争に行く前の侍は士気を高めるため、日本酒を飲んだのではないかと



われます。吉乃川は、このころは既に酒造りを始めていたので、同じ水、同じ気候で作られたお酒を河井継之助も飲んで戦争に向かって行ったという歴史のロマンもあります。この河井継之助、最近、映画で有名になりまして、映画にあやかり長岡の偉人シリーズ3種を造りました。

新潟県は消費量が全国一番でございます。製造場の数、蔵の数も全国で一番多い県で全国に約1,400の蔵のうち88蔵が新潟県にあります。そのうち長岡には16蔵あり、吉乃川もこの中のひとつですが、長岡は盆地ということで水豊か、米豊か、そして気候に恵まれていたので酒の文化が増えていったのではないかと想像されます。吉乃川は撰田屋にあります。長岡のだいたい中央に位置し、雪が長岡の中でも結構多いところで、発酵、醸造の町といわれています。これは、江戸後期から明治に創業した醸造蔵が今も軒を連ねていたところに由来しています。特に冬場は、酒造りの、蒸米の匂いや、酒の発酵、醤油が発酵するにおいを嗅げたり、お味噌の香りが嗅げたりする、非常に趣深い土地になっています。

吉乃川の酒ミュージアム「醸蔵」という施設ですが、この建物、実は大正時代の蔵で、築約100年の国の有形文化財でございます。それを2019年に、お客様と吉乃川との関係づくりの場所のためにリノベーションをしました。中は大体5つのブースに分かれていて、吉乃川の歴史や酒造りについて紹介コーナーやクラフトビール醸造場があります。そして売店など、様々なコンテンツがあり、この建物ができたことによって直接お客様に吉乃川、撰田屋について発信できる拠点となっています。今年、撰田屋の各お蔵さんと協力してパネルディスカッションをやるなど発酵・醸造という長岡のひとつのポイントとなる拠点、撰田屋としての取組を日々進化させようとしている、そんな場所です。

私たちは新潟県産米にこだわった酒造りを

しております。造っているお酒のほとんどが新潟県産米です。2018年に設立した吉乃川農産株式会社は将来に続く安定供給ができるように、自分たちの手でも作れるノウハウを付けておこうということで、農業を始めました。地元の農家さんへの協力ということもひとつの理由です。特徴としては、スマート農業をしております。また、会社の取り組みを、私たちはユーチューブを使って発信しています。

最後に、吉乃川のビジョンについて説明します。日本酒文化を守る、地域の食文化を伝える。醸造の力で文化を創っていく。日本酒というのは千年以上続く日本の伝統文化で、古来からほとんど造り方は変わっていません。もちろん吟醸酒が生まれたり、いろいろ製造のデジタルの部分が発展したりして製造の部分はかなり研ぎ澄まされておりますが、造り方自体は千年前から変わっていません。そんな日本酒は地元の水、米、そして気候から醸されるものです。正に、地元の産業や文化をそのまま落とし込んだものが日本酒の良さだと思います。地元の原料から造られるものだからこそ、地元の食文化とも深く根付き、その産業の大きなポイントとなると思います。吉乃川は地元の人に支えられ、飲んでいただいて、地元のものを使って醸している酒蔵ですのでやはり酒を中心として、そこにつながる、発酵・農業・食品・醸造・観光といった文化を守り、伝え、新しい時代を創っていききたいと思います。変わらないために変わっていく、変えないために、今までを変えないためにこれから先の挑戦を続けていききたいと思います。

2 令和4年度農業教育課題研究会

新潟県立長岡農業高等学校

1 テーマ 製菓技術講習会

2 目的

本県の農業科教員及び農業部会員を対象に、講師から菓子の製造技術について指導し

ていただくことにより、担当者の製造技術力を高めると共に指導力向上を目的とする。

- 3 日 時 令和4年11月22日(火)
4 会 場 新潟県立長岡農業高等学校
製パン実習室
5 日 程 13:30~13:50 受付
13:50~13:55 開会式
13:55~14:00 日程説明
14:00~16:30 実技講習
16:30~16:45 閉会式
6 講 師 有限会社 司生林堂
代表取締役 神林 浩司 様

7 内 容

製菓技術講習会では、参加者同士でペアを組み、講師の司生林堂代表取締役神林浩司様の指



導の下、羊羹巻ロール(焼き菓子)と小麦饅頭(蒸し菓子)の製造を以下のとおり行った。

(1) 羊羹巻ロールケーキ(焼き菓子)

●ロール生地

- ①全卵を湯煎にかけ、上白糖を3回に分けて加え泡立てる。
- ②薄力粉を混合する。
- ③サラダ油中に生地を加えよく混ぜてから、残りの生地に混ぜる。
- ④生地を裏ごしながら天板に流し均一に伸ばす。
- ⑤オーブンに入れ上火180℃、下火160℃で約17分間焼成し放冷

●羊羹

- ①鍋に水と固形寒天をいれ、溶けたら加熱し、沸騰してきたらグラニュー糖加える。
- ②再び沸騰してきたらこし餡を加え混合し、重量が正味500gを目安として煮詰める。
- ③水を入れたボールに鍋を置き、混ぜながら冷ます。

●巻き上げ(成形)

- ①焼き色がついた面に羊羹を塗布する。
- ②めん棒を使い生地を巻き上げ後、両端を切り落とし、さらに2等分に切り包装する。

(2) 小麦饅頭

- ①上白糖とイスパタを混ぜ合わせ水を加える。(水の量は品温により増減)
- ②薄力粉を加えたら生地の完成。
- ③こし餡は1個30gに分割し、丸めて餡玉をつくり、バットへ並べておく。
- ④生地を1個15gに計量し、手粉を多めにつけてから包餡する。
- ⑤蒸し用金網に固く絞った濡れ布巾を敷き、上にセパレートシートをのせ、包餡後の饅頭を並べ、刷毛で余分な粉をはらう。
- ⑥スチームボックスに入れて12分間蒸し上げる。
- ⑦放冷後ポリシートで包装し完成。

9 参加者の感想

- ・和菓子の製造技術講習会は、大変有意義で貴重な体験ができた。
- ・他校の教員と共に楽しく製造することができる良い機会となった。
- ・もっと多くの種類和菓子作りを体験したいと思った。
- ・和菓子作りは授業では取り組んだことがないためとても新鮮で面白かった。
- ・プロの方から指導いただき、プロならではの感覚的な内容でとてもためになった。高度な所もありついていくのが精一杯だった。

10 担当者より

実技講習会については、新型コロナ感染拡大防止のため計画を断念していたが、今年度ようやく開催が可能となった。講師から指導いただき、県内各高校から集まった教員が共に菓子作りを行うことができ大変喜ばしい。ところがまだ終息まで至ら

ないこともあり、作った菓子の試食や、参加者による情報交換を行う機会を見合わせた事が残念であった。

工業部会

工業化学系研究会・見学会

【研究会】

期 日 令和4年8月22日（月）

会 場 新潟薬科大学 会議室

参加者 14名

本年度新潟県が当番となる高校生ものづくりコンテスト化学分析部門の北信越大会、全国大会について、事務局より概要の説明、準備や当日の流れの確認を各校で行った。

化学系事務局、各種大会の輪番について確認、各校の新教育課程の報告、各校の現状などを意見交換した。

その他、各校での観点別評価の様子について各校の現状や、評価に関わる情報交換、実習等の各校の様子、意見交換を行いました。

コロナウイルス蔓延の観点から、先生方が集まって研究会を開くのが、3年ぶりとなり、リモート会議と違い、活発な意見交換や問題提起ができました。特に観点別評価については、始まったばかりで、そのほとんどが情報交換に費やされましたが、今後の方向性を確認できたと思います。

また、毎年、顔をあわせての研究会の必要性を感じました。



研究会の様子

【見学会】

期 日 令和4年8月22日（月）

会 場 新潟薬科大学

参加者 14名

新潟薬科大学は、1977年に県内初の4年制私立大学として開学した大学である。40年にわたり「くすり」だけでなく、「食品・バイオ・環境」も含めたあらゆる側面から「生命と健康」の科学的な探求を目指す、生命科学系総合大学である。

コロナ禍でPCR検査の担い手としても注目の臨床検査技師を目指す「医療技術学部臨床検査学科」、看護師や保健師を目指す「看護学部看護学科」が2023（令和5）年4月より設置されることから、既存の学科の他、設置学科についてご説明をいただいた。

薬科大学は、化学系生徒の進学先になっており、化学系学科でも学ぶ薬学・食品・バイオなどが深く関連していることを改めて実感した。また、「医療技術学部臨床検査学科」、では、検査や分析の学習もあり、化学系で学んだ勉強がベースになることも感じました。

大学の施設見学では、応用生命学科を中心に見学させていただき、核磁気共鳴分析装置などの高度な分析機器や、各コースの研究施設などを拝見させていただきました。

見学でご対応いただきました新潟薬科大学の皆様にご挨拶申し上げます。



見学会の様子

（記・県立新潟工業高等学校

工業化学科 與口 眞大）

建築研究会（協議会・研究講座）

- 1 期 日 令和4年9月30日（金）
- 2 会 場 県立新発田南高等学校
建築科総合実習室
- 3 参加校 5校 （18名）
- 4 日 程
受 付 10:00～10:30
開 会 式 10:30～10:40
協 議 会 10:40～12:15
研 究 講 座 13:00～16:20
閉 会 式 16:20～16:30

協議会

協議題

- 1 各校の本年度の進路先の状況について
 - 2 工業科の志願者を増加させる各校の取り組みについて
 - 3 高教研の土木建築の合同開催について
 - 4 ものづくりコンテストの輪番について
- 工業科の志願者を増加させる取り組みについて、案内書に女子生徒を多く掲載する、学校紹介PR動画を作成するなど、活発な意見交換が行われた。



研究会の様子

研究講座

「2級建築士エスキス手法講座」

講 師：県立新発田南高等学校

建築工学科 教諭 伊藤 正和

建設業界への登竜門である2級建築士資格であるが、令和2年より受験資格が緩和さ

れ、指定学科を卒業した年に、受験資格が得られる。

このことによって、工業高校等の建築科（試験センターから指定された学科に限る）を卒業すると、実務経験不要で社会人1年目や大学1年生の時点で受験することができるようになった。

高等学校の授業だけでは、この試験に合格することは難しく、特に2次試験である「設計製図の試験」については、問題文の読解方法やプランニング方法、製図法について、特別な受験対策が必要である。



研究講座の様子

研究講座では、「2級建築士エスキス手法講座」と題し、実際に過去に出題された試験問題をもとに、短時間でプランをまとめるための方法について、講座が開かれた。

問題文の読解であるが、赤と青の色鉛筆を使用し、問題文へのマーキング・チェック方法や用語の読み取りや考え方について解説があった。エスキス（プランニング）手法については、道路位置や隣地条件と、駐車スペースやテラスといった外部空間の配置を先に仮決めすることによって、建築物の規模限度と位置を効率的に押さえる手法や、室をパズル的に配置する実践練習も行われた。

本日の講座内容を、工業科の建築系の高校生向けの資格試験の指導に役立てていただき、早期に合格するための一助になることを期待したい。

（記・県立新発田南高等学校 建築工学科

伊藤 正和）

機械・電子機械講演会・研究会・見学会

期 日 令和4年10月3日(月)

【研究会】

会 場 長岡工業高校セミナーハウス

参加者 15名

【講演会・研究会】

・講演テーマ：「長岡市の機械産業の産・学
連携事業の取組み」

・講師：NPO法人 長岡産業活性化協会
NAZE 常務理事 小林 信行 様

・演題：豪技と産学連携課題解決事業の
紹介について

県内機械産業の中心地である長岡の機械産業の成り立ちと近代における地域の発展の歴史、産・学連携により4大学・1高専との問題解決型事業の取組みや、長岡地域の活性化をはかる活動の紹介とご説明をいただきました。

・研究会

〈協議題〉

(1)溶接時のヒュームに関する環境

各校の溶接実習室の空気の流れや環境について

(2)進路状況に関する情報交換

各校とも進路状況が回復してきており、明るい兆しが見え始めていることが伺えました。



写真① 講演会

【見学会】

会 場

長岡歯車製作所

参加者 13名

・テーマ：「歯車業界の現状と今後」

・講師：株式会社長岡歯車製作所
代表取締役 加納 孝樹 様

現在の歯車業界の状況と今後の予想についてのお話や会社の事業内容の説明（製品開発）、電気自動車EVなど自動車業界の急速な変化によって受ける影響などについてご講演いただきました。また、同社で開発された、非円形歯車の模型や、田植え機のアーム内部の機構を大変理解しやすく、ご教示いただきました。

また、併設する長岡電子株式会社様では、歯車の焼き入れ前の処理（歯部のコーティングによる焼き入れ時間の調整）を拝見することができました。また、活発な質問など若手教員にとって刺激ある興味深い見学会となりました。



写真② 見学会

最後に本見学会・研究会の開催にご快諾をいただきました株式会社長岡歯車製作所の加納孝樹様、長岡産業活性化協会小林信行様をはじめ、ご協力いただきました社員の皆様に深く感謝申し上げます。

(記・県立長岡工業高等学校

機械工学科 渡邊 幸弘)

電気・電子系 見学会・研究会

期 日 令和4年10月4日(火)
会 場 東京電力ホールディングス株式会社
柏崎刈羽原子力発電所
サービスホール

参加者 10名

【見学会】

・柏崎刈羽原子力発電所の現況

発電所見学に先立ち東京電力ホールディングス株式会社柏崎刈羽原子力発電所 副所長 林 克彦 様より発電所の概要説明および安全確保、福島第一原子力発電所事故の教訓を踏まえた対策についてご説明をいただきました。

(1) 津波に対する防護

津波による浸水対策

防潮堤の建設、防潮壁の設置など

(2) 電源と原子炉等の冷却機能の確保

非常用電源が使用できない場合の対策

淡水・海水による冷却手段の確保など



発電所の現況説明

・展示館見学

原子力発電の燃料から5分の1サイズの原子炉格納容器など発電のしくみを学習でき、模型や映像により大変理解しやすい展示となっています。

・発電所構内見学

発電所構内をバスで見学させていただきました。発電所の現況でご説明いただいた安全対策が現在も進められています。

・体験型総合訓練棟見学

訓練で使用される体験型総合訓練棟を見学し、高所ダミー墜落体験、巻き込まれ体験、VR危険体験など現場作業における危険を模擬体験させていただきました。



展示館の様子



VR危険体験の様子

【研究会】

同施設をお借りし、研究会を実施させていただきました。

<協議題>

- (1) 教科指導について各校の取り組み
- (2) 進路に関する情報交換
- (3) その他

活発な意見交換が交わされ、有意義な研究会となりました。

最後に本見学会・研究会の開催に快くご協力をいただきました東京電力ホールディングス株式会社柏崎刈羽原子力発電所の皆様に深く感謝申し上げます。

(記・県立柏崎工業高等学校

電気技術科 中村 智幸)

土木系 講習会

期 日 令和4年12月16日(金)

会 場 県立新潟県央工業高等学校 会議室

参加者 7名

【はじめに】

昨年度までは、現場見学や講演会を実施していましたが、今年度は少し主旨を変え、既設の土木施設を題材に、その施工に携わった技術者の方を講師に迎え、施工方法やその留意点などをグループワークで考えるPBLを行いました。参加した先生方には、今回学んだ内容を自校の生徒の学習状況等に合わせて再構成してもらい、授業として生徒へ還元してもらおうことを目的に開催しました。

【事前準備】

講師として、笹原建設 株式会社 土木部 次長でおられる佐藤 武史 様へ依頼し、担当された砂防えん堤を題材にしました。先生方が授業を実施する時期を3年生2学期末と設定し、これまで学習してきた専門科目の知識を横断的に活用することで総復習ができること目指しました。佐藤様と教科書の砂防えん堤に関する内容を精査し、工事の受注後にまず検討するコンクリートの打設順序に係る記述が少ないため、これをテーマにしました。

【実施内容】

PBL は、①砂防えん堤の役割を復習、②題材の紹介、③垂直壁のある砂防えん堤の打設順序の検討、④本えん堤上部と本えん堤基礎部との境目の検討、⑤マスコンクリートを踏まえた打設順序の検討、⑥水替え、公共事業の発注形態、冬季間の工事中止を踏まえた打設順序の検討、の流れで進めました。③から⑥の検討をつうじて打設順序の考え方が変わっていき、最終的には実際の打設順序へと導かれていく流れになっています。

ア) ③垂直壁のある砂防えん堤の打設順序
教科書では、垂直壁のない砂防えん堤の打

設順序が示されていますが、一般的には垂直壁も設置されるため、この打設順序について検討しました。

イ) ④本えん堤の上部と基礎部の境目の考え方

教科書では、境目は側壁高さの下部となっていますが、現場では側壁高さの上部と考えることが多いため、その理由も含めて検討しました。

ウ) ⑤マスコンクリートによる打設順序

体積や重量の大きいマスコンクリートは、硬化する際の発熱による温度ひび割れの発生を防がなければなりません。教科書の記載の範囲で検討の後、「河川砂防技術基準(案)(出典:国土交通省)」での指針を示し再検討を行いました。

エ) 水替え等を踏まえた打設順序

河川の中央部に河川水をせき止める形で砂防えん堤を設置するため、河川水の水替え(右岸や左岸に河川水を替え施工を可能にすること)が必要になります。また、公共事業は多年度に渡り発注されることや冬期間は積雪により工事が実施できないことなども踏まえ、発注金額や工期も考えた打設順序を策定し打設計画を完成させました。

【講習会を終えて】

生徒がこの学習を行った際、現場では多くの制約があり、教科書のように簡単に施工ができないこと、これまでの学習を活用することで打設計画を策定できることや技術力の向上のために学び続ける姿勢が必要であることなどを理解できると思います。また、先生方からは、「おもしろい内容だった。とてもためになった」や「かなり高度な内容のため、生徒のレベルに合わせるには工夫が必要である」などの感想をいただきました。

【おわりに】

PBL の実施には相当な準備時間と専門的な知識が求められるため、このような講習会をつうじて知識を効率良く得ることは重要だと感じました。今回の実施にあたり、事前準備

の段階からご協力いただいた佐藤様へこの場をかりて感謝申し上げます。ありがとうございました。

(記・県立新潟県立工業高等学校
建設工学科 松本 智)

ロボット技術研究協議会及び研究発表会

期 日 令和5年1月20日(金)

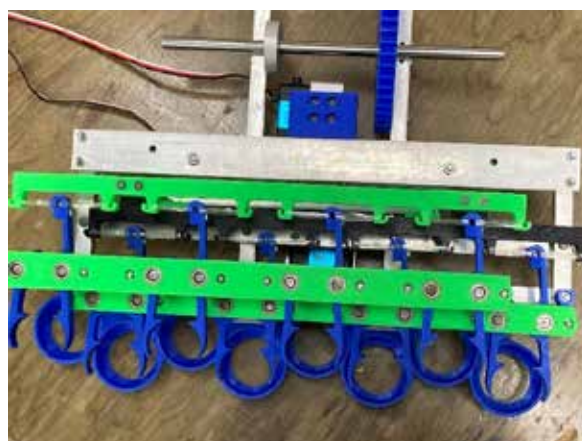
会 場 新潟県立長岡工業高等学校

参加者 59名(生徒40名 教員19名)

今年度は、長岡工業高校を会場としての実施となりました。内容については、今年度は研究発表と分科会に分かれての協議、職員研修会を実施しました。

1 研究発表

研究発表では、ロボット部門は、今年度、青森県で行われた第30回全国高等学校ロボット競技大会で準優勝となった長岡工業高等学校の取り組みについて発表がされました。段差をスムーズに移動する機構や卓球ボールをパイプの上に乗せて落とさず一気に部取り込む機構など、ロボットのいたるところに、多くの知恵と工夫が施されていました。実際に大会に出場した動画では、非常に精度の高い動作で、難所もスムーズに突破していました。発表後の質疑応答も他校の生徒からさまざまな質問があり、発表者や各機構の制作担当が的確にそれらの質問に答えており、非常に有意義な発表会になりました。



置かれている卓球のボールを全て取り込む機構

2 分科会

分科会はロボット、マイコンカーラリーの各部門に分かれて行われました。ロボット部門では生徒約30名が参加し、新潟工業高校と長岡工業高校が全国高等学校ロボット競技大会青森県大会(以下全国大会)に出場したロボットを持ち込み、それぞれのロボット製作の技術を説明しました。

今年の競技は、青森県の岩城山麓の斜面に広がるリンゴ畑で大切に育てた「ふじ」に見立てたアイテムをロボットで収穫し、出荷台に効率よく整然と並べることで得点を競うルールです。

本校生徒が準優勝を果たしたロボットの機構について説明し、他校の生徒と交流を深めることで、ロボット部門の分科会は非常に有意義なものとなりました。また、他の分科会でも、さまざまな意見交換が行われ、充実した分科会となりました。

3 職員研修会

職員研修会では前半はマイコンカーラリー競技の指導について、新潟工業高等学校の小林先生から講習がありました。マイコンカーラリーの歴史や現状、指導方法など、さまざまな観点からお話しされていました。後半はロボット競技の指導について、本校教員の名

塚先生から講習がありました。ロボットの製作について、ご自身の今までの経緯から、具体的によかったところや実際にどのような道具や材料を使っているかなど、細かに説明されていました。どちらの講習もこれからマイコンカーラリーやロボット競技にふれる教員にとって、非常にわかりやすい内容でした。

(記・県立長岡工業高等学校
電気電子工学科 弓 哲)

商業部会

1 期 日 令和4年11月17日(木)

2 会 場 新潟県立三条商業高等学校
株式会社 スノーピーク

3 参 加 9校15名

4 日 程

10:00～10:30 受 付

10:30～10:45 開 会

10:45～11:30 講 演 1

11:30～11:45 質疑応答

11:45～13:15 昼食移動

13:15～14:00 施設見学

14:00～15:00 講 演 2

15:10～15:40 研究協議

15:40～16:00 指導講評

16:00～16:10 閉 会

5 講演 1

演題 「アウトドアの取組について」

「アニメ聖地化の取組について」

講師 三条市役所経済部営業戦略室

係長 会田 貴生 様

(1) 三条市が目指していること

①三条市の課題

平成29年から令和4年までの5年間で総人口の減少が継続している。若者(15～64歳)が4,919人減り、高齢者(65歳以上)が980人増えている。三条市総合計画(平成27年度～令和4年度)は、人口動態の改善と少子高齢化、人口減少社会への対応を取り上げた。人口動態の改善は、若年層の転出抑制、転入促進のために、高等教育環境の充実、就業機会の創出、新事業の創出、移住に向けたシティーセールスの推進などを進めている。少子高齢化、人口減少社会への対応は、地域における暮らしの場の維持など、多極分散化型社会の堅持、多様なコミュニティーの形成などを進めている。

②三条市におけるアウトドアの現状

2020年の余暇活動の参加人口の上位に、国内観光旅行が上位にある。さらに、アウトドアレジャー人口は上位の釣り、ゴルフ、登山、キャンプは下田郷でできることに着眼した。吉ヶ平フィッシングパーク、八木ヶ鼻キャンプ場、スノーピークキャンプ場、栗ヶ岳登山のいずれも利用者が年々増加している。三条市の観光を見ると三条市としては、自然を活用したアウトドアに着眼し、アウトドア事業の活性化による雇用創出や移住に向けた魅力の発信を主に進めている。

③三条市のアウトドアに関する取組

何か調べるにはスマホやコンピュータで調べる、インターネット社会にも目を向けて、自然検索による流入者の獲得を行った。アウトドア関心層が調べたくなるジャンルやキーワードを多用することで、自然に検索順位が上がり、さらに三条市アウトドアの知名度が上がる。また、下田郷ブランドサイト閲覧分析を行い、ホームページの開発も行った。ホームページの滞在時間を長くするためには、興味のある事柄を増やすことと、奥深い内容、知りたい内容をいくつかのページを開いて探すようにも工夫したことで、下田郷ブランドサイトの自然検索による流入者のアクセス数が2021年は1,000に満たなかったが、2022年には2,617の約2.6倍に増えた。これが三条市アウトドア人口増につながっている。

下田郷のアウトドアに若者を呼び込むためには時間とお金を多く使うコンテンツはキャンプである。年齢層は、時間とお金のある未婚の社会人。三条市に近くて人が多いところは、新潟市、長岡市から三条市に呼び込む。季節はオールシーズンで下田郷に呼

び込むことを目的としている。

(2) アニメ聖地化の取組について

①「Do It Yourself—どうー・いっと・ゆあせるふ」とは

女子高生×工具＝ものづくり

家具や友情、人生を考えて、工夫して苦労して失敗して、諦めないで完成させる物語のアニメを作成。

②これまでの取組（アニメ放送前）

令和2年4月よりエイベックスピクチャーズ株式会社に本アニメの舞台として三条市をプレゼン。ロケハンにも同行する。11月に多数の中から三条市が内定。令和3年には、報道機関などへプレリリースなど進めて行く。

令和4年には、東京や燕三条で先行上映する。声優の稲垣好さんの三条凧合戦にサプライズ登場などでさらに知名度が広がる。

③現在の取組

令和4年10月テレビ東京で放送開始。三条市公式観光サイトに、三条アニメ聖地巡礼ナビを開設する。NSTにて毎週日曜日午前放送開始。他にもFM新潟に声優の稲垣好さん登場や三条マルシェでアニメブース設置して大反響となる。

6 施設見学 株式会社スノーピーク

日本にはまだないオートキャンプを広めたい精神から、創業者の山井太が引き継ぎ、さらに規模を広めていく。現在、社員は新潟県外からが多い。目的を高く持ち続ける精神を大切にしている。服も作っているが、糸は捨てられる服の生地をリサイクルしたものを使用。キャンプ環境が足りず15万ヘクタールの旧ゴルフ場をキャンプ場にし、常に県外からも1年前の予約でいっぱい状態。「社員である前にキャンパーであれ」社員には必ず、キャンプして野外で自炊、宿泊などを体験してもらう。

7 講演2

演題 「アウトドア事業と地域活性化への取組み」

講師 株式会社スノーピーク地方創生室

宮島 裕 様

近年、アウトドアブームが続いているが様々なアウトドア企業がある中で、スノーピーク製品が選ばれるにはどうしたらよいか。まずはスノーピークの会員を増やすことに着眼した。会員を増やすことによって、スノーピーク製品を購入してくれる方の具体的な数が出せる。スノーピークの強みは、1つ目に、つくる＝市場創造。オリジナルデザイン（他社の真似をしない）、安心をデザイン（ロングライフ商品、永久保証）、安全をデザイン（使っていて安全なものを）。2つ目に、つながる＝顧客密着／地域密着。社員650名が客とリアルに接する。直接に接することで、客の求めているものが肌で感じられ本気度が分かる。3つ目にスノーピーク会員を増やす。令和4年現在72万人が会員。さらに直営店、インストア店を増やしていく。4つ目に海外展開。現在は、米国、英国、台湾中心に展開しているが、令和5年から中国市場にも広げていく。

スノーピークの地方創生は、拠点開発、体験開発、製品開発、顧客開発を進めていく。Win-Winという勝負ではなく、Happy-Happyとお互いが幸せになることを、目的としている。

水産部会

水産教育研究会

(1) 期 日

令和4年11月28日(月)

(2) 会 場

新潟県立海洋高等学校 大会議室

(3) 講演「探究学習の指導と伴走」 ～生徒の成長発達を実現する探究学習の 理論と実践～

Idea Partners 代表 山本 一輝 様

「探究学習の指導と伴走」というテーマで、探究学習についての理論的な内容と、実践で役立たせるための手法等について、グループワーク等を交えながら、ご講演いただきました。

講演冒頭のワークでは、学ぶ目的とその価値を言語化する活動を行った。このような「学びを目的化する」活動は、学習者の主体性を引き出すことに効果的であり、「自己決定」していくことで、振り返り時に自分に知識や技術が身についたことを感じるができること、身をもって実感することができた。

「探究学習」には、様々な学習モデルがあり、それぞれ特長が異なるが、新学習指導要領において、最も理にかなっているものは「経験学習モデル」で、「知識は人から与えられるものでなく、自分の頭でつくっていく」という構成主義的な観点を取り入れていくことが重要であることがわかった。

また、探究学習を支援する側である「伴走者」によって、プロジェクトをやり遂げる生徒の割合が大きく変わると言われており、探究学習を実行する上で「伴走者」が、いかに重要な存在であるか、認識することができた。

さらに探究学習に関わる教員や地域の職業人などの大人が、コーチング、フィードバック、



リフレクション、コーディネートという要素を、探究学習の中で担っていくことが、良質な探究学習を実施する上で、重要なポイントであることが理解できた。

(4) 研究発表「新学習指導要領における 観点別評価の現状と課題」

新潟県立海洋高等学校
教諭 矢口 沙保里

今年度より開設された学校設定科目「地域探究」における観点別評価の現状と課題について発表した。1学期の評価は、主に講演会に関するレポートによって、成績を算出し、定期考査は実施しなかった。

「知識・技術」という観点では、Aが25%、Bが69%、Cが6%で

あった。「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」についても、同様の評価となった。B以上が付いた生徒が非常に多く、概ね設定した目標値に達していた。

一方で、レポートが多く、Cが付いた生徒への指導が間に合わないことがあった。評価はできる限り生徒に分かりやすく、ここまでは到達しようとしていきたい。

(5) 研究発表「タブレット端末等を活用した 授業実践報告」

新潟県立海洋高等学校
教諭 金子 義昂

令和4年度より、全生徒に配布されたタブレット端末等を活用した授業実践について発表した。

主に実習レポートの管理や、リモート授業、イシモズクの調査における水中ドローンの操作等、地域振興イベントの企画・運営に係る授業などにおいて活用した。

いずれの実践においても、成果物の管理や共有、評価等が行いやすいことなど、効率化が図れた一方、通信環境等の課題もあった。



家庭科部会

1 全県講習会

期 日 令和4年8月5日(金)

会 場 小千谷市総合産業会館サンプラザ

(1) 部長挨拶

新潟県高等学校教育研究会家庭科部会部長

新潟県立長岡大手高等学校長 佐藤 一彦

1点目として、家庭科に関する研修会等についてお話しします。

7月25日(月)に、北信越家庭科高等学校長協会家庭科総会・研究協議会がZoomで開催され、本県から糸魚川白嶺高校が生活福祉系列の取組について発表されました。上田千曲高校とのオンライン交流などを含む、家庭科と福祉を融合させた活動の研究発表でした。翌26日(火)には家庭クラブ北陸大会がZoomで開催され、当校からも生徒2人が出席し、生徒間の交流もできました。両日とも、生徒の生き生きとした姿が見られ、家庭科教育の「主体的・対話的で深い学び」について改めて認識したところです。

2点目は、家庭科の専門学科・総合学科で学ぶ生徒の進学についてです。多くの生徒から大学に進学してもらい、家庭科の教員あるいは将来の家庭科の研究者、専門知識の豊富な社会人に育ってほしいと思います。専門学科募集枠を活用しての進学についてご指導をお願いします。

(2) 主管校校長挨拶

新潟県立小千谷西高等学校長 小林 裕貴

今日の全県講習会の大きなテーマに、成年年齢の引き下げに関わり、経済活動を担う一員としての資質の醸成と生活の中の危険リスクからの積極的な回避があげられております。また、地元の魅力をしっかりと認識することで、地元貢献地元定着の生活スタイルを意識付けることが学校教育に期待されるところでもあります。

小千谷は、古来より信濃川の物流を中心軸に、地方の文化が行き交う場所であり、西脇順三郎先生を筆頭として文化が成熟し、小千谷縮などの産業が栄えたところであることは皆様のご承知のところでは。

当校でも家庭科の地域学習で小千谷に伝わる衣、食、住を学習し、過去から現在、現在から未来へ文化をつなげてきたところです。近年は行政も含めた地域で「起業」の活性化に取り組む、伝統プラス新しいことへの挑戦を支える風土が生まれてきています。本日はよろしくお願ひします。

(3) 来賓挨拶

新潟県教育庁高等学校教育課指導第2係

指導主事 貝田 智子 様

ご承知の通り、今年度から新学習指導要領が年次進行で実施されています。家庭科では「家庭基礎」や「家庭総合」における家計管理や経済計画等の単元で、基本的な金融商品の特徴、資産形成の視点に触れることなどが明記されました。授業では、株式や債権、投資信託等の金融商品に関する内容を扱うこととなりますが、限られた時間の中で何をどの程度教えれば良いのか、といった戸惑いの声も少なくないようです。

本研修を通して家庭科における金融教育や産業教育について知見を深め、高校生に身につけさせる資質・能力を育むための指導のヒントを得て頂きたいと思ひます。

(4) 講演

「資産形成をする力を養い、マネートラブルに遭わないために」～高校生で身につけたいお金との付き合い方～

講 師 新潟県労働金庫小千谷支店

久保田 和明 様

① ライフプランと金融講座

今年の4月から成年年齢が20歳から18歳に引き下げられました。高校生の皆さんが18歳になられて契約したことは皆さんご自身の責任になるため、社会で生きていくために必要なお金に関する知識、判断力を身につけて欲しいと思います。

高校生のうちから、なぜお金について学ぶ必要があるのか、私たちを取り巻く4つの状況から考えてみたいと思います。まず1つ目「人生100年時代」ですが、医療の発展などにより今後、平均寿命が着実に伸びます。老後資金は長期にわたり必要であり、備えていく必要があります。

2つ目「老後2000万円問題」ですが、退職後の約30年間に必要な生活費は約2000万円であると金融庁から報告されたもので、ゆとりある豊かな生活を送るには、年金だけでは足りず、不足する分を補うには、様々な預貯金や資産運用をする必要性があります。

3つ目は「長期的な視点で資産形成」を行うことが必要である点です。消費者物価指数の推移を見ると、あらゆるモノの値段があがる「インフレ」であり、これに対応するには、預貯金だけではなく、株式や財形といった投資をすることが有効です。長い期間で見ると、購入した株式などのモノの価値があがると、将来的に多くのお金に換えることができます。資産を育てることを考えることが大切となります。

4つ目「お金の知識」についてです。成年年齢が引き下げられ、親御さんの許可がなくても一人で契約できるが増えます。その責任もご自身で負うため、お金に対する判断力を身につけることが必要となります。

自立した消費者になるために、借り入れについては、それが本当に必要かどうか、契約の内容や金利をよく確認した上で、トラブルに巻き込まれないように利用して頂きたいと思います。

② マネートラブル防止講座

クレジットカードによる後払いは借り入れをするということになるため、その支払いが滞ると、お金に対する信用を失うことになります。また、その人の

情報が信用情報機関に登録され、いざ買い物をするとき、新規にカードを作るときなど、お金に関する手続きができなくなりますので、信用を失わないように確実に支払える金額で計画的に使って頂きたいと思います。

(5) 教材紹介

高校生向け副教材「明るい未来へTRY！」

講師 一般社団法人 日本損害保険協会
関東支部 奥 英昭 様

授業実践する中で、金融商品を自ら選択する力である金融リテラシーを身に付けることが大切であり、貯める、増やす、備えるという3つセットで初めて金融商品を上手く使えていることになるため、我々も銀行や生命保険さんなどと組んで、金融リテラシーの底上げに取り組んでいます。学生の皆さんが生きていく上での手段として、保険が有効に使えることがあるということをおわかっていただければ一番大事なことかと思っておりますので、そのきっかけとなる授業としてこの教材を使っていただくのがねらいです。

(6) 講演

「人と地域の未来のために、種を蒔く
～さつまいもに人生をかけた女性起業家～」

講師 (株)農プロデュース リッツ

代表取締役 新谷 梨恵子 様



さつまいもを使った様々な商品開発をしましたが、最初の頃から上手くいっていたわけではなく、さつまいもで小千谷の町おこしは無理だと言われ、その悔しさのお陰で絶対に形にしたいと思いました。そのとき、農業法人で働いていた経験を何かを活かせないかと思いました。採れた農産物には売れないものもあり、それを加工するにはどうするか悩んでいる農家さんから、私が求められている

のは何かを考えるようになり、それが起業のきっかけとなります。

農家が作ったものを加工も販売も全て自分でやらないといけないというのは大変だと思い、私がおいしいものを上手に届ける役を担うために6次産業プランナーをしています。需要の変化やターゲットを考えて売り方を変えることが大切です。売れない理由が必ずあるのにそれを知らなかったり、新しい商品が出たり、時期がずれたりすると売れなくなってしまう。だからこそ、大事なことは「伝えること、伝え続けること、声に出しましょう」と話しています。また、人と人が出会う場所として、ビジネスマッチング、異業者交流会を行っています。固定概念を取っ払えば可能性は無限大だと考えるようになりました。新型コロナウイルスから教えてもらったことは、「悩まない、気にしない、持ち越さない」ということです。また、小千谷に来てもらいたいという考えから、今度は私が届けようと考えようになりました。色々なところで自分を発信することで、「伝える＝伝わる」となり、「動く」に繋がります。「困難は乗り越えるだけじゃもったいない。大切なのは変換力。そこにヒントが隠されている。」と思います。マイナスをプラスに変えることに気がついたら、可能性は無限大です。

過去の栄光は未来の約束ではない。悔しきはバネになり希望は背中を押してくれます。自分自身を磨き続けて、悔しいという気持ちも全て希望に変えて、また頑張ろうと思うようにしています。

(7) 指導講評

新潟県教育庁高等学校教育課指導第2係

指導主事 貝田 智子 様

新学習指導要領では高校の家庭科で「金融教育」の取り扱いが拡充され、預金、債権、投資信託、株式という4つの基本的な金融商品の特徴などを含めた「資産形成」について教えることとなりました。授業では、成年年齢引き下げも踏まえながら、生徒が適切な判断と行動をできるようにするための正しいお金の知識、いわゆる金融リテラシーを身につけ、将来的に必要な資産を計画的に形成

していける主体的な力を育むことが望まれています。

本日ご紹介頂いた教材や専門家の出前講座等を効果的に活用しながら、正しい情報をもとに金融教育を行っていただけるようお願いいたします。

新谷様のご講演では、「伝えること、声に出すこと、伝え続けることが大事」「違いを知ることが大事」「悩まない、気にしない、持ち越さない」など、多くの苦勞に裏付けされた力のあるお言葉を頂戴し、家庭科の授業にどう還元していけるであろうかと思いを巡らせていました。

近年、起業家精神を取り入れた教育が注目されていますが、家庭科教育においても、生活産業の活性化を担う人材を育成するため、職業人として必要とされる自立心や創造力、チャレンジ精神を培う授業に結びつくよう、専門性を生かした特色ある教育活動を推進していきたいと思っております。

(8) 閉会挨拶

新潟県高等学校教育研究会家庭科部会副部長
新潟県立柏崎常盤高等学校長 奥田 優

民法改正により今年4月から成年年齢が18歳に引き下げられ、消費者被害の未然防止が重要です。資産形成についてのお話では、教科横断的な学習が必要であると感じました。また、将来における様々なリスクを想定して不測の事態に備える対応ができるようにすることが大切です。授業における活用法や実践的な内容を教えていただきました。日常生活の中に色々なヒントがあることを生徒に伝えていきたいと思っております。本日はありがとうございました。

2 研究成果の刊行

「家庭科研究 58号」発刊

新潟県高等学校教育研究会家庭部会、新潟県立教育センター、新潟県高等学校校長協会家庭部会、全国高等学校家庭クラブ、全国高等学校家庭科技術検定などからの報告を集録。

保健体育部会

1 保健体育部会 全県研究会

期 日 令和4年11月25日(金)
会 場 新潟県健康づくり・スポーツ医
科学センター 「大研修室」
参加者 42名

【講話】

新潟県教育庁保健体育課学校体育指導係
副参事・係長 志田 哲也 様
「休日の部活動の段階的な地域移行について」



【講演】

株式会社 High Performance Hub
代表取締役社長 今田 圭太 様
「これからの時代のコーチに必要なこと～VUCA 時代
に求められるスポーツコーチングとは～」



2 全県養護教諭研修会

期 日 令和4年10月21日(金)
会 場 新潟ユニゾンプラザ
(ハイブリッド方式)
参加者 88名

【講演】

県立新発田病院
小児心身症科部長 塚野 喜恵 様
「児童青年期の心の健康と精神症状の理
解」



3 刊行物

研究集録(第58集)
保健体育部会 HP に掲載

情報部会

1 情報部会HP



情報部会HPをGoogleサイトを利用して開設しました。今後の研究成果を掲載する予定です。

2 研究会

(1) 情報教育研究会 (Web開催)

期日 令和4年9月27日(火)



運営は柏崎高等学校で行いました。

講演

演題

『大学入学共通テストのサンプル問題から見えること～教職員と「情報」との向き合い方～』

講師

工学院大学附属中学校・高等学校
校長 中野 由章 様

研究発表

テーマ

「教科「情報Ⅰ」の授業実践について」

発表者

国際情報高等学校 教諭 渡邊篤史

高田高等学校 教諭 山本豊彦

参加者 36名

(2) 全県研究協議会 (Web開催)

期日 令和4年11月29日(火)

講演

演題

「教科『情報』において、どのように資質・能力を育成し、どう評価するか～大学入学共通テストも見据えて～」

講師

京都精華大学 教授 鹿野 利春 様

研究発表

テーマ

「情報教育の学習評価の方法」

発表者

新潟江南高等学校 教諭 関川裕介

東京都立町田高等学校

指導教諭 小原格

参加者 31名

3 会議

代議委員会 (書面審議)

議題

令和4年度高教研情報部会役員について

令和4年度事業計画および予算について

4 研究成果

研究成果については情報部会HPに掲載しています。

生徒指導部会

1 全県委員会

日時 第1回 7月12日(火)
会場 県立巻高等学校 会議室
第2回 (書面審議)

2 全県研究協議会

日時 11月17日(木)
会場 県立巻高等学校
内容 講演会及び研究協議
〈午前〉講演会
演題 「特別支援教育を心理学から理解する」
講師 上越教育大学専門職学位課程
教授 大庭 重治 様



〈午後〉研究協議
第1分科会 「交通安全指導」について
第2分科会 「特別支援と生徒指導」について
第3分科会 「SNS・いじめ・自殺予防」について
発表及び講評
講評者
新潟県教育庁生徒指導課副参事指導主事
高松 利治 様



3 刊行物

生徒指導部会誌 第55号
内容 研究内容・資料・部会活動報告
冊数 350冊

図書館部会

1 総会・講演会・研究協議会

期 日 令和4年8月1日（月）
会 場 新潟ユニゾンプラザ 中研修室
参加者 28名

2 刊行物

『 図書館部報 』 第66号

内容

【講演】 13:30～15:00

演題：生徒もビックリする図書館の
作り方

講師：埼玉県立飯能高等学校
図書館司書 湯川 康宏 様

【研究協議会】 15:10～16:40

事前アンケートの内容を全体で共有

【図書館部会総会】 15:40～16:00

講演や議案等については、『図書館部報』
をご覧ください。



視 聴 覚 部 会

1 視聴覚部会総会

期 日 2月22日(水)

議 題

- (1) 令和3年度事業総括
- (2) 令和3年度決算報告
- (3) 令和4年度事業計画
- (4) 令和4年度予算案
- (5) 令和4年度予算中間報告

※新型コロナウイルス対策のため
郵送による書面審議

2 指導者研修の実施

- (1) 生徒講習会と共に実施した指導者研修
・春期講習会 3月19日(日) 9:30～

- (2) NHK校内放送技術者講座

期 日 12月27日(火)～28日(水)

参加者 3人

※当部会はNHK校内放送指導者講座への参加を推奨しています。読みや番組の指導方法や審査技術を習得することができ、修了時には、HNK杯全国高校放送コンテストの審査員として認証する「審査員証」が交付されます。また、参加者には、NHK新潟放送局からの補助金による研修補助制度もあり、参加しやすいものになっています。まだ、受講経験の無い会員の皆様にぜひご参加いただきたいと思います。

3 コンテストの主催及び共催

放送コンテスト県内大会の主催および高文連放送専門部との共催を行い、こうした大会の審査・運営を通して指導技術の向上を図っています。また、日程・大会結果は、本部会刊行誌「視聴覚教育研究」に掲載します。

- (1) 新潟県高等学校放送コンテスト(主催)

6月14日(火) 参加者22人

- (2) QK杯新潟県校内放送コンクール(共催)

11月6日(日) 参加者20人

※以上参加者数は事業参加教職員数

4 刊行物

名 称 視聴覚教育研究 第60号

発行日 令和4年度末

部 数 40冊

内 容 実践報告

コンテスト結果と事業報告

視聴覚部会規約

高等学校教育研究会規約

その他

定 通 部 会

I 定時制通信制教育総合研究会

期 日 令和4年7月26日(火)
当番校 県立荒川高等学校
会 場 ホテル イタリア軒
主 題 「未来に向かって生徒の可能性を
拓く定時制・通信制教育の推進」

- 1 令和3年度県外視察事業報告
県立新潟翠江高等学校
- 2 研究発表
①特別支援教育 県立出雲崎高等学校
②進路指導 市立明鏡高等学校
- 3 指導助言
高等学校教育課指導主事 山本 寛 様
- 4 講演
演題「高等学校における特別支援教育～特
別な支援を要する生徒の理解のため
に～」
講師 県立はまぐみ特別支援学校長
藤田 綾子 様

II 役員会総会・理事会

<第1回>

期 日 令和4年5月19日(木)
形 式 Web会議ツール「Zoom」を活用し
たオンライン開催
議 事 令和4年度役員の委嘱について
報 告 令和3年度事業報告
令和3年度決算報告
協 議 令和4年度事業計画(案)
令和4年度予算(案)

<第2回>

期 日 令和5年2月10日(金)
会 場 県立歴史博物館 研修室
報 告 令和4年度事業報告
令和4年度決算中間報告
協 議 令和5年度事業計画(案)
令和5年度教育総合研究会(案)

III 各校情報交換会

期 日 令和4年11月10日(水)
当番校 県立出雲崎高等学校
会 場 県立出雲崎高等学校
参加校 県内定通部加盟校11校
内 容 教務、生徒指導、進路指導
等について

IV 県外視察

期 日 令和4年10月25日(火)
" 10月26日(水)
視察校 静岡県立浜松大平台高等学校
愛知県立一宮高等学校
派遣校 県立長岡明德高等学校
私立開志学園高等学校

V 刊行物

実践集録59号 350部
令和5年2月吉日 発刊

研究会・講習会等の開催	目的	国語授業の改善と指導力の向上		
	期 日	令和4年6月30日(木)	令和4年11月16日(水)	令和5年2月2日(木)
	場 所	書面審議	オンライン研究協議会	書面審議
	研究会名称	運営委員会	全県研究協議会	運営委員会
	研究会テーマ	年度計画及び全県研究協議会の実施について	「新学習指導要領を踏まえた授業づくり～主体的・対話的で深い学びの実践を目指して～」	年度活動の反省 次年度活動計画
	講 師 職 氏 名		新潟大学人文学部 磯貝淳一教授	
	研究協議職・氏名		① 実践発表 長岡大手高校 藤巻仁実教諭 ② 指導講評 県立教育センター 近藤崇指導主事 ③ 講演 ④ 研究協議	
参加者数	13名	46名	13名	
研修分野の分類	②	②③④	②	
研究調査	主要テーマ	特になし		
	調査の期日 場所・参加者数			
図書購入	図書名冊数	特になし		
刊行物出版 研究成果	名 称	『国語研究』第69集		
	主な内容	各種研究研修報告等		
	冊 数	200冊		

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 国語部会 令和5年度事業計画（案）

部長 萱森 茂樹

研究会・講習会等の開催	目的	国語授業の改善と指導力の向上		
	期 日	6月中旬	11月下旬	令和6年1月下旬
	場 所	未定	未定	未定
	研究会名称	運営委員会	全県研究協議会	運営委員会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	年度計画の検討 全県研究協議会 の実施計画	「新学習指導要領を 踏まえた授業づく り～主体的・対話 的で深い学びの実 践を目指して～」 講演テーマ未定	年度活動の反省 次年度活動計画
	講師職 氏 名		講師未定	
	研究発表 テーマ・職・氏名		発表者未定（2名） 指導主事講評 県立教育センター 指導主事	
参加者数	13名	約70名	13名	
研究分野の分類		②	①②③④⑤⑥	②
研究調査	主要テーマ	特になし		
	調査の期日 場所・参加者 数			
図書購入	図書名 冊 数	特になし		
刊行研究 物成果 出版	名 称	『国語研究』70集		
	主 な 内 容	研究協議会発表・講演内容、各種研究研修報告等		
	冊 数	200冊		

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 地理歴史・公民部会 令和4年度事業報告書

部長 早川 勝志

研究会・講習会等の開催	目的	地理歴史・公民科の新学習指導要領及び大学入学共通テストに向けた研究を推進し、地理歴史・公民科教育の発展充実をはかる。		
	期日	7月1日(金)	8月9日(火)	11月18日(金)
	場所	県立新潟高等学校	長岡高校西風会館他	県立歴史博物館
	研究会名称	研究協議会	地理研究会・巡検	地理歴史研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「『地理総合』で育む資質・能力とその評価」	「歴史と未来をつなぐデザイン～長岡のものづくり・人づくり～」	第1部「越後国郡絵図を用いた授業」 ／第2部「『地理総合』・『歴史総合』1年目の取組」
	講師職氏名	兵庫教育大学副学長 吉水 裕也 様	株式会社大原鉄工所技術・製造本部製造管理部長 鈴木 正人 様 味噌屋六店主 星野 正夫 様	長岡工業高等専門学校教授 田中 聡 様 県立歴史博物館専門研究員 前嶋 敏 様 上越市公文書センター上席芸員 福原 圭一 様
	研究発表 テーマ・職・氏名	「『地理総合』における観点別評価について」 長岡明德高校 中野 理恵 教諭		「地理総合」1年目の取組 小出高校 酒井 未来 教諭 西新発田高校 吉田 行香 教諭 「歴史総合」1年目の取組 新潟向陽高校 中村 崇志 教諭
	参加者数	42	13	34
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に	① ② ③ ④	① ⑤ ⑦	① ③ ④ ⑦	
研究調査	主要テーマ			
	調査の期日 場所・参加者数			
図書購入	図書名 冊数			
刊 研究 行 成果 物 出版	名称	『地理歴史・公民研究』第61集		
	主な 内容	【総会・研究会報告】研究協議会(中村崇志・長岡大・小林真也)／地理研究会・巡検(山崎雄一)／地理歴史研究会(酒井未来・吉田行香・中村崇志)【研究論文】「上山藩越後領研究の緒論」(関根正人)／「地域権力」興福寺と室町幕府(中村崇志)、【私の教材紹介】「iPadを活用し、インタラクティブな展開を目指した授業(加藤直樹)／「歌う『歴史総合』その1『蛍の光』」(中村崇志)、【大学入学共通テスト問題選講評】世界史B(横山翔)／日本史B(上田浩介)／地理B(小川浩司)／倫理(山本学)／政治・経済(白沢孝志)、【部会通信】		
	冊数	310冊		

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 地理歴史・公民部会 令和5年度事業計画（案）

部長 早川 勝志

研究会・講習会等の開催	目的	地理歴史・公民科の新学習指導要領及び大学入学共通テストに向けた研究を推進し、地理歴史・公民科教育の発展充実をはかる。		
	期日	6月30日(金)(予定)	8月18日(金)	11月下旬
	場所	県立新潟高等学校(予定)	直江津中等教育学校	新潟県訓高等学校
	研究会名称	研究協議会	地理研究会・巡検	公民研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	(未定)	「上越の港・里をめぐる～世界・未来とのつながり～」	「公共」における資質・能力の育成とその実践
	講師職氏名	長野県蘇南高等学校長 小川 幸司 様	(未定)	筑波大学附属駒場中学校・高等学校教諭 山本 智也 様
	研究発表 テーマ・職・氏名	県立小千谷高等学校 湧井 勇記 教諭	—	新潟市立万代高等学校 加藤 直樹 教諭
	参加者数	40	20	20
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に	② ① ③ ④	⑤ ① ⑦	④ ① ② ③	
調査研究	主要テーマ			
	調査の期日 場所・参加者数			
購入図書	図書名 冊数			
刊行物出版	名称	『地理歴史・公民研究』第62集 (令和6年3月末日刊行予定)		
	主な内容	総会・研究会報告、研究論文・実践報告、私の教科書紹介、地歴公民の広場、 大学入学共通テスト問題集解説		
	冊数	310冊		

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 数学部会 令和4年度事業報告書

部長 内田 卓利

研究会・講習会等の開催	目的	学力の向上を目指した数学教育の研究			
	期日	7月7日(木)	10月18日(火)	11月28日(月)	
	場所	下越地区 (新潟テルサ)	中越地区 (アトリウム長岡)	上越地区 (柏崎市文化会館アルフォーレ)	
	研究会名称	数学教育研究会	全県研究協議会	地区研究協議会	
	研究会テーマ	高等学校における数学教育の諸問題について	高等学校における数学教育の諸問題について	高等学校における数学教育の諸問題について	
	講演	テーマ	「データサイエンス及び最適化手法で必要とされる数学について」	「新学習指導要領とICT機器を活用した授業改善」	「授業に活かす学習評価～観点別評価から『深い学び』をつくるには～」
		講師 職・氏名	新潟大学理学部理学科 数学プログラム 教授 山田 修司 様	東京学芸大学 ICTセンター 教授 森本 康彦 様	上越教育大学 准教授 河野 麻沙美 様
	研究発表	テーマ	「新潟大学入学試験問題の分析について」	「ICT機器を活用した授業改善」	「観点別評価と授業改善」
		発表者 職・氏名	県立新潟南高等学校 教諭 小武 鉄平	県立小出高等学校 校長 南方 伸之 県立堀之内高等学校 教諭 逸見 紘一	県立直江津中等教育学校 教諭 中條 彩
	参加者数		76名	69名	62名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①, ②, ③	②, ③, ④	②, ③, ④	
研究調査	主要テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・数学力向上のための意欲を引き出す指導について ・数学の指導におけるICTの活用及び観点別評価について 			
	調査の期日 場所・参加者数	各県内高等学校			
購 入 書	図書名 冊数	なし			
刊 行 物 成 果 出 版	名称	「数学教育研究集録」第61号			
	主な内容	会員の実践研究, 研究大会報告及び講演内容			
	冊数	300冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 数学部会 令和5年度事業計画（案）

部長 内田 卓利

研究会・講習会等の開催	目的	学力の向上を目指した数学教育の研究			
	期日	7月	10月	11月または12月	
	場所	中越地区	上越地区	下越地区	
	研究会名称	数学教育研究会	全県研究協議会	地区研究協議会	
	研究会テーマ	高等学校における数学教育の諸問題について	高等学校における数学教育の諸問題について	高等学校における数学教育の諸問題について	
	講演	テーマ	未定	未定	未定
		講師 職・氏名	未定	未定	未定
	研究発表	テーマ	「大学入試問題の分析について」	未定	未定
		発表者 職・氏名	未定	未定	未定
	参加者数	80名（予定）	80名（予定）	80名（予定）	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①, ②, ③	②, ③, ④	②, ③, ④	
研究調査	主要テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・数学力向上のための意欲を引き出す指導について ・数学の指導におけるICTの活用及び観点別評価について 			
	調査の期日 場所・参加者数	各県内高等学校			
購入図書	図書名 冊数	なし			
刊行研究成果出版	名称	「数学教育研究集録」第62号			
	主な内容	会員の実践研究, 研究大会報告及び講演内容			
	冊数	320冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	理科教育の研究・発展に資する		
	期日	7月21日(木)	11月14日(月)	11月17日(木)
	場所	Web会議	三条高等学校セミナーハウス 1階研修室	オンライン研修
	研究会名称	第1回役員会	生物教育研究会	物理教育研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」		「新たな一次産業の扉を開く～魚が野菜を育てるアクアポニックス農法」～	「アメリカの物理教育研究の紹介」
	講師職氏名		株式会社 プラント フォーム 代表取締役 CEO 山本 祐二	香川大学教育学部学校教育教員養成課程 教授 笠 潤平
	研究発表 テーマ・職・氏名	R3事業報告 決算報告 R4事業計画 予算案	「菩提寺山のヒゴスミレ保全活動」 新津高等学校 石澤 佳代	「『思考力、判断力、表現力等』を見取るための試み」 新潟中央高等学校 本田 崇
参加者数	22名	21名	13名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①②③	①②③④	

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	理科教育の研究・発展に資する		
	期日	12月9日(金)	12月16日(金)	2月1日(水)
	場所	長岡大手高等学校 済美会館研修室	新潟県立植物園 研修室	Web会議
	研究会名称	地学教育研究会	化学教育研究会	第2回役員会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「化石を扱う古生物学：あの手この手で絶滅生物のふるまいを復元したい」	「海洋教育の必要性とその化学的アプローチ」	
	講師職氏名	新潟大学理学部 准教授 椎野 勇太	東京海洋大学海洋資源環境学部 准教授 淵田 茂司	
	研究発表 テーマ・職・氏名		「Opp シートの活用実践報告『化学』熱化学～無機化学の單元において」 新津高等学校 尾崎 巧 「ICT を活用した遠隔補習をとおして感じたこと」 長岡明德高等学校 北畑 雄一郎	R4 事業報告 中間決算報告 R5 事業計画 予算案
参加者数	11名	15名	20名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に	①②	①②③		
調査 研究調	主要テーマ			
	調査の期日 場所・参加者数			
購入 図書	図書名 冊数			
刊行 物出版 研究成果	名称	理科研究集録第62号		
	主な内容	研究報告・講演要旨		
	冊数	210冊		

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	理科教育の研究・発展に資する			
	期日	7月頃	9～11月	9～11月	9～11月
	場所	未定	未定	未定	未定
	研究会名称	第1回役員会	物理研究会	化学研究会	生物研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	活動計画 予算案	未定	未定	未定
	講師職氏名		未定	未定	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名		未定	未定	未未
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①②③④	①②③④	①②③④	

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	理科教育の研究・発展に資する			
	期日	9～11月	1月下旬 までに		
	場所	未定	未定		
	研究会名称	地学研究会	第2回役員会		
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	各種報告 活動計画		
	講師職氏名	未定			
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定			
参加者数					
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に	①②③④				
研究調査	主要テーマ	ICTの活用/新学習指導要領における観点別評価の実践			
	調査の期日 場所・参加者数	未定			
図書購入	図書名 冊数				
刊 行 物 出 版	名称	理科研究集録 第63号			
	主な 内容	研究報告・講演要旨			
	冊数	210冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研 芸術部会 令和4年度 事業報告書

部長 小堺 さとみ

研究会・講習会等の開催	目的	会員相互の研修を深め芸術教育の向上をはかる	
	教科	全 体	
	期 日	11月14日(月)	
	場 所	長岡グランドホテル アオーレ長岡ナカドマ	
	研究会名称	芸術部会総会	芸術部会 研究協議会・分科会・講演会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	総会【書面開催】 ①令和3年度事業報告 ②令和3年度決算報告 ③令和4年度役員案、会員数 ④令和4年度事業計画案 ⑤令和4年度予算案 ⑥今年度の芸術部会事業について ・令和4年度は講演会を開催 ・令和4年度当番校は事務局 ・会場及び時期の予定 (参考) 芸術部会規約	・研究協議・分科会 3科に分かれて ・講演会 「響生～異質のモノの同士が響き生かし合う世界を求めて～」 講師 書芸家 平野 壯弦 氏 ・書芸アートパフォーマンス&ワークショップ 講師 書芸家 平野 壯弦 氏
	講師職氏名		平野 壯弦 氏
	研究発表 テーマ・職・氏名		研究協議会・分科会 〈音楽〉 ・新学習指導要領における評価について 〈美術〉 ・実践報告 中越高校 北村 和則 教諭 豊栄高校 片桐 泰紀 教諭 〈書道〉 ・新学習指導要領における評価について
参加者数	49名	23名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となる テーマを先頭に		①、②、③、④、⑦	
研究調査	主要テーマ		
	調査の期日 場所・参加者数		
図書購入	図書名数	なし	
刊行物出版 研究成果	名 称	報告をまとめ、HPに掲載する	
	主 な 内 容		
	冊 数		

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	会員相互の研修を深め芸術教育の向上をはかる				
	教科	音楽	美術		書道	
	期日		8月25日(木) 8月26日(金)	8月22日(月)	11月11日(金)	令和5年2月1日(水)
	場所		Gメッセ群馬	小千谷西高校	高陽荘	新津南高校
	研究会名称	音楽科 研修会	美術科 研修会	美術工芸科 研究協議会	美術工芸科 研究協議会	書道科 研修会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	実施せず	第59回 全高美工研 2022群馬大会 「美のいと」 ～つむぐ・むすぶ ・つなぐで考える 美術、工芸教育～	2025 新潟大会 準備検討会	第61回 関東甲信越静 地区造形教育 研究大会 新潟大会 兼第34回 新潟県美術教育 研究大会	実技講習 「オンライン墨づくり体験」 講師 奈良 錦光園 長野 睦 氏
	講師職氏名		記念講演 山口 晃 氏	講演会なし	末永 幸歩氏	長野 睦 氏
	研究発表 テーマ・職・氏名		第2分科会 「むすぶ」 ～授業を広げ、 社会や生活と むすぶ取り 組み～ 動画・文書発表 豊栄高等学校 片桐泰紀 教諭	・大会テーマ について ・会場、日程 について ・他団体と の連携に ついて 他	分科会6 実践報告 中越高等学校 北村和則 教諭	研究協議会 ・文房四宝について ・オンライン実習の可能性に ついて ・教材等情報交換
参加者数	名	5名	8名	6名	7名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択、複数選択可。主となる テーマを先頭に		①、②、③、④	①、④	①、②、③、④	①、②、⑦	
研究調査	主要テーマ					
	調査の期日 場所・参加者数					
購入図書	図書名 冊数	なし				
刊行物出版 研究成果	名称	報告をまとめ、HPに掲載する				
	主な内容					
	冊数					

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 芸術部会 令和5年度 事業計画書(案)

部長 小堺 さとみ

研究会・講習会等の開催	目的	会員相互の研修を深め芸術教育の向上をはかる				
	教科	全体	音楽	美術		書道
	期日	6月	10月	11月7日(火) 11月8日(水)	8月	8月
	場所	創進学園高等学校	未定	宮崎市民プラザ	未定	未定
	研究会名称	芸術部会総会 研究協議会	音楽科研修会	美術科研修会	美術工芸科 研究協議会	書道科研修会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	・総会 ・創進学園高等学校 授業見学 及び施設見学	授業における 歌唱指導に ついて	第60回 全高美工研 2023宮崎大会 「テゲ・テラス ～未来(あした)に マップス!美術、 工芸教育～」	2025新潟大会 準備検討会	鑑賞 美術館見学等
	講師職氏名		未定	記念講演 廣村 正彰 氏	未定	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名		未定	第2分科会	・組織の確認、 業務分担に ついて ・会場、会期、 日程に ついて ・後援団体の 申請等 手続きに ついて 他	未定
	参加者数	54名	18名	16名		18名
研修分野の分類 <small>下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを 先頭</small>	①、②、⑤	①、②、⑥、⑦	①、②、③、④、⑤、⑥、⑦		①、②、④、⑤	
研究調査	主要テーマ	「新しい芸術教育の取組みについて」				
	調査の期日 場所・参加者数	未定				
図書購入	図書名 冊数	なし				
研究結果 刊行物出版	名称	報告をまとめ、HPに掲載する				
	主な内容	実践報告、県外芸術教育先進校視察				
	冊数					

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	英語教育の推進と向上			
	期日	8月17日(水)	11月10日(木)	2月2日(木)	
	場所	オンライン開催	オンライン開催	高田高校 (オンライン・参集併用によるハイブリッド型)	
	研究会名称	夏季研修会	全県研究大会	上英研・高教研共催による英語教育研究会	
	研究会テーマ「講演テーマ」	県内教諭による実践紹介、情報交換	新課程における指導と評価の実践	新課程における指導と評価の実践	
	講師職氏名	なし	新潟大学 教授・松沢伸二	中央大学 教授・栗原文子 明星大学 教授・清田洋一	
	研究発表 テーマ・職・氏名	生徒の言語活動と観点別評価・ 教諭・高田哲也(万代高校)、鈴木啓(巻高校)	なし(講演メインだったため)	高田高校1学年の取り組み・教諭・長谷川誠(高田高校)	
	参加者数	28名	40名	63名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に	②③④	①②④	①②③④⑥		
研究調査	主要テーマ	なし			
	調査の期日 場所・参加者数	なし			
購入図書	図書名 冊数	なし			
刊行研究成果 出版物出版	名称	「英語部会誌」第67号			
	主な内容	研修会報告、実践報告など			
	冊数	300冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 英語部会 令和5年度事業計画（案）

部長 保坂 哲

研究会・講習会等の開催	目的	英語教育の推進と向上			
	期日	8月	10月	未定	
	場所	未定	未定	未定	
	研究会名称	夏季研修会	全県研究大会	会員有志による研究会	
	研究会テーマ 「講演テーマ」	英語教育の推進と向上	英語教育の推進と向上	英語教育の推進と向上	
	講師職氏名	未定	未定	未定	
	研究発表 テーマ・職・氏名	研究発表：県内英語科教諭	・講演 ・研究発表：県内英語科教諭等	研究授業、実践発表等	
	参加者数	100人	100人	100人	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に	①～⑦	①～⑦	①～⑦		
研究調査	主要テーマ	新学習指導要領の指導と評価、ICT活用、授業改善			
	調査の期日 場所・参加者数	未定			
図書購入	図書名 冊数	未定			
刊行物出版	名称	「英語部会誌」68号			
	主な内容	研修会報告、実践報告、寄稿等			
	冊数	350部			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研 農業部会 令和4年度事業報告書

部長 椎谷 一幸

研究会・講習会等の開催	目的	農業教育の充実と発展		
	期日	令和4年8月4日(木)、5日(金)	令和4年11月22日(火)	
	場所	万代シルバーホテル	長岡農業高校	
	研究会名称	農業教育研究大会 (高田農業高等学校)	農業教育課題研究会 (長岡農業高等学校)	
	研究会テーマ 「講演テーマ」	研究会テーマ 「持続可能な未来のために社会課題に関心を持つ子どもたちに育てよう」 講演テーマ 「発酵くらしくまざる、つながる、うまれる」～ 創業1548年 撰田屋の酒造「吉乃川」の取組	製菓技術講習会	
	講師職氏名	吉乃川株式会社 蔵元 川上麻衣様 ミライ発酵本舗株式会社 マネージャー 斎藤 篤 様	司生林堂 神林 浩司 様	
	研究発表 テーマ・職・氏名	生産経営系・環境創造系・資源活用系の 学科の取組について 長野・新潟・石川県の各教諭	菓子の製造技術の習得および指導力の向上	
	参加者数	約200名	12名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		②③	②③	
研究調査	主要テーマ			
	調査の期日 場所・参加者数			
購入図書	図書名 冊数			
刊行物出版 研究成果	名称	「新潟県農業教育研究会誌」第57号(新発田農業高等学校)		
	主な内容	研究論文・報告文・トピックス・その他		
	冊数	150冊		

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研 農業部会 令和5年度事業計画（案）

部長 椎谷 一幸

研究会・講習会等の開催	目的	農業教育の充実と発展	
	期日	未定	未定
	場所	未定	未定
	研究会名称	農業教育研究大会 (高田農業高等学校)	農業教育課題研究会 (加茂農林高等学校)
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	未定
	講師職氏名	未定	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定	未定
	参加者数	未定	未定
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①②③	②③
研究調査	主要テーマ		
	調査の期日 場所・参加者数		
図書購入	図書名 冊数		
刊行物出版	名称	「新潟県農業教育研究会誌」第58号（長岡農業高等学校）	
	主な内容	研究論文・報告文・トピックス・その他	
	冊数	150冊	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

(見学会の部)

部長 長井 英幸

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	8月22日(月)	9月30日(金)	10月3日(月)	10月4日(火)
	場所	新潟薬科大学	新発田南高校	(株)長岡歯車製作所	東京電力ホールディングス(株)
	研究会名称	工業化学見学会	建築見学会	機械・電子機械見学会・講習会	電気・電子見学会・研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	新潟薬科大学見学 新設学科説明	中止	長岡歯車製作所見学	柏崎刈羽原子力発電所構内・サービスホール見学
	講師職氏名	新潟薬科大学		(株)長岡歯車製作所代表取締役 加納 孝樹様	東京電力ホールディングス(株)副所長 林 克彦様
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数	14名		15名	10名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	① ⑤		① ⑤	① ⑤	
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名数				
刊行研究成果 出版物 版	名称	新潟県工業教育紀要第59号			
	主内容	工業教育(講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など)の令和4年度研究集録			
	冊数	220冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

(見学会の部)

部長 長井 英幸

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	12月16日(金)		()	()
	場所	新潟県中央工業高校			
	研究会名称	土木見学会			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	中止			
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
参加者数					
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に					
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書冊数				
刊行研究成果 出版物	名称	新潟県工業教育紀要第59号			
	主内容	工業教育(講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など)の令和4年度研究集録			
	冊数	220冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

(研究会・講習会・講演会の部)

部長 長井 英幸

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	8月22日(月)	9月30日(金)	10月3日(月)	10月4日(火)
	場所	新潟薬科大学	新発田南高校	長岡工業高校	東京電力ホールディングス(株)
	研究会名称	工業化学研究会	建築研究会	機械・電子機械講習会	電気・電子研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	ものづくり コンテスト と観点別評価・新教育課程について	2級建築士エスキス手法講座	長岡地域における産・官・学プロジェクトの紹介	教科指導に対する各校の取り組みと進路情報交換
	講師職氏名		新発田南高校 建築工学科教諭 伊藤 正和	長岡産業活性化協会 NAZE 常務理事 小林 信行様	東京電力ホールディングス 林 克彦様
	研究発表 テーマ・職・氏名				
参加者数	14名	18名	15名	10名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①④	①②	①⑦	①②③	
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名数				
刊行研究成果出版	名称	新潟県工業教育紀要第59号			
	主内容	工業教育(講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など)の令和4年度研究集録			
	冊数	220冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

(研究会・講習会・講演会)

部長 長井 英幸

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	12月16日(金)	1月20日(金)		
	場所	新潟県中央工業高校	長岡工業高校		
	研究会名称	土木研究会	ロボット技術研究協議会		
	研究会テーマ 「講演テーマ」	砂防えん堤施工方法についてPBLの実施	各ロボット競技大会報告、ロボット技術講習		
	講師職氏名	笹原建設(株) 土木部次長 佐藤 武史様	長岡工業高校 機械工学科教諭 名塚 武史		
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数	7名	59名		
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①②⑦	①②⑦			
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名数				
刊行研究成果 出版	名称	新潟県工業教育紀要第59号			
	主内容	工業教育(講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など)の令和4年度研究集録			
	冊数	220冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 工業部会 令和 5 年度事業計画（案）

（見学会の部）

部長 長井 英幸

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	10月上旬	10月頃	10月～11月	未定
	場所	未定	未定	未定	未定
	研究会名称	工業化学見学会	建築見学会	機械・電子機械見学会	電気・電子見学会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「 」		「 」	「 」
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	① ⑤	① ⑤	① ⑤	① ⑤	
究調査研	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
入書購	図書名数				
刊研究物出版	名称	新潟県工業教育紀要第60号			
	主内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和5年度研究集録			
	冊数	220冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 工業部会 令和 5 年度事業計画（案）

（見学会の部）

部長 長井 英幸

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	未定			
	場所	未定			
	研究会名称	土木見学会			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「 」	「 」	「 」	
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①⑤				
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名数				
刊行研究成果 出版	名称	新潟県工業教育紀要第60号			
	主内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和5年度研究集録			
	冊数	220冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 工業部会 令和 5 年度事業計画（案）

（研究会・講習会・講演会の部）

部長 長井 英幸

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	10月上旬	10月頃	10月～11月	未定
	場所	長岡工業高校	上越総合技術高校	新潟工業高校	上越総合技術高校
	研究会名称	工業化学研究会・講習会	建築研究会・講習会	機械・電子機械研究会・講習会	電気・電子研究会・講習会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	カリキュラム・観点別評価について 「 」	「 」	「 」	「 」
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①④⑦	①③⑦	①③⑦	①③⑦	
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名数				
刊行研究成果 出版	名称	新潟県工業教育紀要第60号			
	主内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和5年度研究集録			
	冊数	220冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 工業部会 令和 5 年度事業計画（案）

（研究会・講習会・講演会の部）

部長 長井 英幸

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	未定	1月中旬～下旬		
	場所	新発田南高校	長岡工業高校		
	研究会名称	土木研究会・講演会	ロボット技術研究協議会		
	研究会テーマ 「講演テーマ」		各ロボット競技大会報告、ロボット機構紹介		
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①③⑦	①③⑦			
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名数				
刊行研究成果 出版	名称	新潟県工業教育紀要第60号			
	主内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和5年度研究集録			
	冊数	220冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 商業 部会 令和4年度事業報告書

部長 仲 野 孝

研究会・講習会等の開催	目的	経済社会の発展を担う商業教育	
	期日	11月17日(水)	
	場所	新潟県立三条商業高等学校 株式会社 スノーピーク	
	研究会名称	高教県商業部会 ビジネス分野研究会	
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「アウトドアの取り組み、アニメ聖地化の取り組みについて」	「アウトドア事業と地域活性化への取り組み」
	講師職氏名	三条市役所経済部営業戦略室 係長 会田 貴夫 様	株式会社スノーピーク 地方創生室 宮島 裕 様
	研究発表 テーマ・職・氏名	なし	
	参加者数	9校15名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に	①、②、⑤		
研究調査	主要テーマ	なし	
	調査の期日 場所・参加者数	なし	
図書購入	図書名 冊数	なし	
刊 行 物 出 版 研 究 成 果	名称	新潟県商業教育第58号	
	主な内容	研究発表、実践報告、大会報告、研究会報告	
	冊数	100冊	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	経済社会の発展を担う商業教育
	期日	11月中旬
	場所	村上桜ヶ丘高等学校
	研究会名称	未定
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定
	講師職氏名	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定
参加者数	約20名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		未定
研究調査	主要テーマ	なし
	調査の期日 場所・参加者数	
図書購入	図書名 冊数	未定
刊行物出版 研究成果	名称	新潟県商業教育 第59号
	主な内容	1. 研究論文 2. 実務競技大会報告 3. 専門委員会報告 4. 各種研究会報告 5. 検定試験結果報告と分析 6. その他
	冊数	約100冊

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	水産・海洋教育の充実と発展を目指す				
	期日	11/28 (月)	()	()	()	
	場所	県立海洋高等学校 (糸魚川市)				
	研究会名称	新潟県高等学校 教育研究会・水産部会				
	研究会テーマ 「講演テーマ」	水産・海洋教育の充実 「探究学習の指導と伴走」 ～生徒の成長発達を実現する 探究学習の理論と実践～	「	」	「	」
	講師職氏名	Idea Partners 代表 山本 一輝 様				
	研究発表 テーマ・職・氏名	「新学習指導要領における観 点別評価の現状と課題」 教諭 矢口 沙保里 「タブレット端末等を活用し た授業実践報告」 教諭 金子 義昂				
参加者数	20名					
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に	②、③、④					
研究調査	主要テーマ					
	調査の期日 場所・参加者数					
図書購入	図書名 冊数	高校生のための「探究」学習図鑑 他 33冊				
刊 行 物 出 版 研 究 成 果	名称	令和4年度 新潟県水産教育研究会				
	主な内容	研究成果報告				
	冊数	40冊				

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 水産部会 令和5年度事業計画（案）

部長 増田 てつ志

研究会・講習会等の開催	目的	水産・海洋教育の充実と発展を目指す			
	期日	未定	()	()	()
	場所	県立海洋高等学校 (糸魚川市)			
	研究会名称	新潟県高等学校教育研究会・水産部会			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	水産・海洋教育の 充実 「未定」	「 」	「 」	「 」
	講師職氏名	未定			
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定			
	参加者数	30名			
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に	①、②、③、④				
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名 冊数	未定			
刊行物出版	名称	令和5年度 新潟県水産教育研究会			
	主な内容	研究成果報告			
	冊数	40冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	家庭科教育の充実と発展	
	期日	8月5日(金)	
	場所	小千谷市総合産業会館サンプラザ	
	研究会名称	全県講習会	
	研究会テーマ 「講演テーマ」	1 講演 「資産形成をする力を養い、マネートラブルに遭わないために～高校生で身につけたいお金との付き合い方～」 2 講演 「人と地域の未来のために、種を蒔く～さつまいもに人生をかけた女性起業家～」	
	講師職氏名	1 講演 新潟県労働金庫小千谷支店 久保田 和明様 2 講演 (株)農プロデュース リッツ 代表取締役 新谷 梨恵子様	
	研究発表 テーマ・職・氏名		
参加者数	30人		
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に	① ②		
研究調査	主要テーマ		
	調査の期日 場所・参加者数		
購入図書	図書名 冊数		
刊行物出版	名称	家庭科研究第58号	
	主な内容	講習会・研究協議・会員の研究など	
	冊数	140冊	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研家庭科部会令和5年度事業計画（案）

部長 佐藤 一彦

研究会・講習会等の開催	目的	家庭科教育の充実と発展	
	期日	8月4日（金）	
	場所	上越地区（未定）	
	研究会名称	全県講習会	
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	
	講師職氏名	未定	
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定	
	参加者数	30名	
研究調査	主要テーマ		
	調査の期日 場所・参加者数		
図書購 入	図書名 冊数		
研究成 果 刊 行 物 出 版	名称	家庭科研究第59号	
	主な 内容	講習会・研究協議・会員の研究など	
	冊数	140冊	

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	保健体育科教員及び養護教員の研修	
	期日	11月25日（金）	10月21日（金）
	場所	新潟県健康づくり・スポーツ 医科学センター「大研修室」	新潟ユニゾンプラザ （ハイブリッド方式）
	研究会名称	保健体育部会全県研究会	全県養護教諭研修会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	1 「休日の部活動の段階的な地域移行について」 2 「これからの時代のコーチに必要なこと～VUCA時代に求められるスポーツコーチングとは～」	現代的健康課題を抱える児童生徒への支援と養護教諭の役割 「児童青年期の心の健康と精神症状の理解」
	講師職氏名	1 新潟県教育庁 保健体育課学校体育指導係 副参事・係長 志田 哲也 様 2 株式会社 High Performance Hub 代表取締役社長 今田 圭太 様	県立新発田病院 小児心身症科 部長 塚田 喜恵 様
	研究発表 テーマ・職・氏名	/	
参加者数	42名	88名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①②③	①②③	
研究調査	主要テーマ	なし	
	調査の期日 場所・参加者数	なし	
図書購入	図書名数	なし	
刊行物の出版 研究成果	名称	研究集録 第58集	
	主内容	研究会、講演会の内容収録	
	冊数	0部・・・HPに掲載	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	保健体育科教員及び養護教員の研修	
	期日	11月25日（金）	10月21日（金）
	場所	新潟県健康づくり・スポーツ 医科学センター「大研修室」	新潟ユニゾンプラザ （ハイブリッド方式）
	研究会名称	保健体育部会全県研究会	全県養護教諭研修会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	1 「休日の部活動の段階的な地域移行について」 2 「これからの時代のコーチに必要なこと～VUCA時代に求められるスポーツコーチングとは～」	現代的健康課題を抱える児童生徒への支援と養護教諭の役割 「児童青年期の心の健康と精神症状の理解」
	講師職氏名	1 新潟県教育庁 保健体育課学校体育指導係 副参事・係長 志田 哲也 様 2 株式会社 High Performance Hub 代表取締役社長 今田 圭太 様	県立新発田病院 小児心身症科 部長 塚田 喜恵 様
	研究発表 テーマ・職・氏名	/	
参加者数	42名	88名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①②③	①②③	
研究調査	主要テーマ	なし	
	調査の期日 場所・参加者数	なし	
図書購入	図書名数	なし	
刊行物の出版 研究成果	名称	研究集録 第58集	
	主内容	研究会、講演会の内容収録	
	冊数	0部・・・HPに掲載	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	情報科教育の充実と発展	
	期日	9月27日(火)	11月29日(火)
	場所	上越地区 (Web会議)	中越地区 (Web会議)
	研究会名称	情報教育研究会	全県研究協議会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	情報教育の課題 「大学入学共通テストのサンプル問題から見えること～教職員と「情報」との向き合い方～」	情報教育の課題 「教科『情報』において、どのように資質・能力を育成し、どう評価するか～大学入学共通テストも見据えて～」
	講師職氏名	工学院大学附属中学校・ 高等学校 校長 中野 由章	京都精華大学 教授 鹿野 利春
	研究発表 テーマ・職・氏名	教科「情報Ⅰ」の授業実践について 国際情報高等学校 教諭・渡邊篤史 高田高等学校 教諭・山本豊彦	情報教育の学習評価の方法 新潟江南高等学校 教諭・関川裕介 東京都立町田高等学校 指導教諭・小原 格
参加者数	36名	31名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に	①、②、③	①、②、③	
研究調査	主要テーマ	情報と情報技術を適切かつ効果的に活用するための資質・能力の育成	
	調査の期日 場所・参加者数	県内高等学校	
購入書	図書名 冊数	第15回全国高等学校情報教育研究会全国大会(オンライン大会) 発表資料集 1冊	
刊行物出版	名称	「情報教育研究集録」第1号	
	主な内容	会員の実践研究、研究大会報告及び講演内容	
	冊数	情報部会のホームページで公開予定	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 情報部会 令和5年度事業計画（案）

部長 吉川 保

研究会・講習会等の開催	目的	情報科教育の充実と発展			
	期日	7月（予定）	10月（予定）		
	場所	下越地区 (Web会議)	上越地区 (Web会議)		
	研究会名称	情報教育研究会	全県研究協議会		
	研究会テーマ 「講演テーマ」	情報教育の課題 「大学入学共通テスト『情報』試作問題から考える情報教育（仮）」	情報教育の課題 「プログラミングとデータの活用から考える情報教育（仮）」		
	講師職氏名	(未定)	(未定)		
	研究発表 テーマ・職・氏名	大学入試を見据えた情報教育の実践 県内・県外情報科担当教諭等	探究学習の教材開発と授業実践 県内・県外情報科担当教諭等		
	参加者数	50名（予定）	50名（予定）		
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①, ②, ③	①, ②, ③			
研究調査	主要テーマ	情報と情報技術を適切かつ効果的に活用するための資質・能力の育成			
	調査の期日 場所・参加者数	県内高等学校			
図書購入	図書名 冊数	第16回全国高等学情報教育研究会全国大会（オンライン大会） 発表資料集 2冊			
刊行物出版	名称	「情報教育研究集録」第2号			
	主な内容	会員の実践研究，研究大会報告及び講演内容			
	冊数	情報部会HP掲載			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 生徒指導部会 令和4年度事業報告書

部長 北岸 信治

研究会・講習会等の開催	目的	生徒指導上の諸問題の把握と研鑽
	期日	令和4年11月17日(木)
	場所	県立巻高等学校
	研究会名称	全県研究協議会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「育てる生徒指導」～多様性に対応した生徒指導～ 講演「特別支援教育を心理学から理解する」
	講師職氏名	上越教育大学専門職学位課程 教授 大庭 重治
	研究発表 テーマ・職・氏名	なし
参加者数	47名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		① ② ⑦
研究調査	主要テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・「交通安全指導」 ・「特別支援と生徒指導（多様な生徒への対応を含む）」 ・「いじめ・自殺予防（SNSに係る問題を含む）」
	調査の期日 場所・参加者数	テーマ別に分かれての研究協議 場所：県立巻高等学校等 47名
購入図書	図書名数	なし
刊行物成果出版	名称	生徒指導部会誌 第55号
	主内容	研究内容・資料・部会活動報告
	冊数	350冊

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 生徒指導部会 令和5年度事業計画書（案）

部長 北岸 信治

研究会・講習会等の開催	目的	生徒指導上の諸問題の把握と研鑽
	期日	令和5年11月16日(木) 予 定
	場所	県立巻高等学校
	研究会名称	全県研究協議会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「生徒の伸長と発達を支える生徒指導」 ～生徒一人一人の自己実現を目指して～ 講演「テーマ（未定）」
	講師職氏名	未 定
	研究発表 テーマ・職・氏名	なし
	参加者数	50名（予定）
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①②⑦
研究調査	主要テーマ	(予定) ・交通安全指導 ・多様な生徒への対応 ・SNS等における課題
	調査の期日 場所・参加者数	テーマ別に分かれての研究協議 県立巻高等学校（50名）予定
図書購入	図書名 冊数	なし
刊 行 物 出 版 研 究 成 果	名称	生徒指導部会誌 第56号
	主な内容	研究内容・資料・部会活動報告
	冊数	350冊

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	1 生徒の実態を踏まえての読書指導あり方 2 情報化社会に対応した図書館運営のあり方			
	期日	8月1日(月)			
	場所	新潟ユニゾンプラザ			
	研究会名称	総会・講演会			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	総会・講演会			
	講師職氏名	「生徒もビックリする図書館のつくり方」			
	研究発表 テーマ・職・氏名	湯川 康宏 (埼玉県立飯能高等学校 図書館司書)			
参加者数	20名参加予定				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に	①				
研究調査	主要テーマ	図書館運営に関するアンケート			
	調査の期日 場所・参加者数	総会・講演会において持参・協議			
入 図書購	図書名 冊数	なし			
刊 行 物 出 版 研 究 成 果	名称	「図書館部報」第66号			
	主な 内容	研究会・総会報告・研究会等参加報告、研究論文等			
	冊数	180冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	1 生徒の実態を踏まえての読書指導のあり方 2 情報化社会に対応した図書館運営のあり方			
	期日	未定			
	場所	新潟ユニゾンプラザ			
	研究会名称	総会・講演会			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定			
	講師職氏名	未定			
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定			
	参加者数	未定			
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①			
研究調査	主要テーマ	図書館運営に関する事前アンケート			
	調査の期日 場所・参加者数	総会・講演会において持参・協議			
入 図書購	図書名 冊数	未定			
刊 行 物 出 版	名称	『図書館部報』第67号			
	主な 内容	研究会・総会報告、研究会等参加報告、研究論文等			
	冊数	180冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	視聴覚に関わる諸活動を通して、教職員が、実践力を備えたメディアリテラシーを獲得することで、生徒の課題解決能力向上を促すための指導力を身につける。							
	期日	4月29日	4月29日	6月14日	8月7日	11月6日	12月2日	1月9日	3月19日
	場所	新潟市 ・新潟明訓 高等学校 ・新潟高等 学校	長岡市 ・中越高等 学校 ・長岡工業 高等学校	長岡市 長岡リック ホール	新潟市内 高等学校	新潟市 新潟明訓 高等学校	長岡工業 高等学校	長岡市 まちなかキ ャンパス 長岡	新潟市 新潟明訓 高等学校
	研究会 名称	新潟・下越 地区初心者 講習会	上越・中越 地区初心者 講習会	新潟県高校 放送コンテ スト 主催事業	夏期研修会	Q K 杯校内 放送コンテ スト 共催事業	視聴覚技術 研修会	放送技術者 冬期講習会	放送技術者 春期講習会 研修会
	研究会マ 「講演 テーマ」	基礎的放送 技術に関する 指導方法の得	基礎的放送 技術に関する 指導方法の得	コンテ ストの評 価方 法	アナウン ス・朗読・ 番組の指 導方法の得	コンテ ストの評 価方 法	iPad と簡 易収録シ ステムを 用いた動 画教材制 作研修	アナウン ス・朗読・ 番組の指 導方法の得	N H K 杯 に向けた アウン ス・朗読・ 番組の指 導方法の得
	講師職 氏名	高文連専 門部役員	高文連専 門部役員	N H K 専門職 ディレクター アナウンサー	高文連専 門部役員	N H K 専門職 ディレクター アナウンサー	長岡工業高 等学校職員	高文連専 門部役員	高文連専 門部役員 外部講師
	研究発表 テーマ・職 氏名								
参加者数	11人	5人	22人	12人	20人	10人	12人	15人	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複 数選択可。主となるテー マを先頭に	②指導法 ⑦実習・講 習	②指導法 ⑦実習・講 習	①専門分野	②指導法 ⑦実習・講 習	①専門分野	②指導法 ⑦実習・講 習	②指導法 ⑦実習・講 習	②指導法 ⑦実習・講 習	
調査 研究	主 要 テ マ	第45回校内放送技術者講座							
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数	12月27日、28日 東京都千代田放送会館 3名参加							
書 図	図 書 名 数								
刊 行 物 出 版	名 称	「視聴覚教育研究第60号」							
	主 な 内 容	実践研究報告 令和4年度のコンテスト結果と事業報告 視聴覚部会規約・高等学校教育研究会規約							
	冊 数	40冊							

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 視聴覚部会 令和5年度事業計画書(案)

部長 須藤 浩

研究会・講習会等の開催	目的	視聴覚に関わる諸活動を通して、教職員が、実践力を備えたメディアリテラシーを獲得することで、生徒の課題解決能力向上を促すための指導力を身につける。							
	期日	4月29日	4月29日	6月13日	8月8日	11月12日	11月下旬	1月8日	3月17日
	場所	新潟市 ・新潟明訓 高等学校 ・新潟高等 学校	長岡市 ・中越高等 学校 ・長岡工業 高等学校	長岡市 長岡リック ホール	新潟市内 高等学校	新潟市 新潟明訓 高等学校	新潟市内 民間放送局	長岡市 まちなかキ ャンパス 長岡	新潟市 新潟明訓 高等学校
	研究会 名称	新潟・下越 地区初心者 講習会	上越・中越 地区初心者 講習会	新潟県高校 放送コンテ スト 主催事業	夏期講習会	QK杯校内 放送コンク ール 共催事業	視聴覚技術 研修会	放送技術者 冬期講習会	放送技術者 春期講習会 研修会
	研究会 テーマ 「講演 テーマ」	基礎的放送・視聴覚技術に関する指導方法の習得	基礎的放送・視聴覚技術に関する指導方法の習得	コンテストの評価方法	アナウンス・朗読部門の指導方法	コンテストの評価方法	番組制作・報道技術に関する現場見学	北信越大会に向けた読みの実践的指導方法	NHK杯に向けた番組の実践的指導方法・放送・視聴覚技術の指導方法
	講師職 氏名	高文連専 門部役員	高文連専 門部役員	NHK専門職 ディレクター アナウンサー	高文連専 門部役員	NHK専門職 ディレクター アナウンサー	民間放送局 ディレクター アナウンサー	高文連専 門部役員	高文連専 門部役員 外部講師
	研究発表 テーマ・職 氏名								
	参加者数	10人	10人	20人	15人	20人	12人	10人	15人
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選 択可。主となるテーマを先頭 に	②指導法 ⑦実習・講 習	②指導法 ⑦実習・講 習	①専門分野	②指導法 ③実習・講 習	①専門分野	②指導法 ⑤見学会 ⑦講習	②指導法 ③実習・講 習	②指導法 ③実習・講 習	
調査研究	主 要 テ マ	第46回校内放送指導者講座							
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数	12月下旬 東京都千代田放送会館 2名程度							
購入図書	図 書 名 冊 数								
刊 行 物 出 版 研 究 成 果	名 称	「視聴覚教育研究第61号」							
	主 な 内 容	実践研究報告 令和5年度のコンテスト結果と事業報告 視聴覚部会規約・高等学校教育研究会規約							
	冊 数	40冊							

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研定通部会 令和4年度事業報告

部長 小林 麻利子

研究会・講習会等の開催	目的	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進	
	期日	令和4年7月26日(火)	令和4年11月10日(水)
	場所	ホテル イタリア軒	県立出雲崎高等学校
	研究会名称	令和4年度新潟県高等学校定時制通信制教育総合研究会新潟県高等学校通信制教育研究会	令和4年度新潟県高等学校定時制通信制教育研究協議会情報交換会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「高等学校における特別支援教育～特別な支援を要する生徒の理解のために～」	県内定時制・通信制高等学校情報交換会
	講師職氏名	県立はまぐみ特別支援学校長 藤田 綾子 様	
	研究発表 テーマ・職・氏名	研究発表① 「本校の特別支援教育」 県立堀之内高等学校教諭 白井 友朗 研究発表② 「進路指導・進路実現に向けた通級指導教室の取組」 市立明鏡高等学校教諭 金子 浩美	①教務 ②生徒指導 ③進路指導
参加者数	104人	県内定時制・通信制課程を置く高等学校 11校(28人)	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択(複数可) 主たるテーマを先頭に	② ③ ④	② ④	
研究調査	主要テーマ	先進校視察(教育課程、日本語指導など)	
	調査の期日 場所・参加者数	期日 令和4年10月25日(火)、26日(水) 視察校 静岡県立浜松大平台高等学校、愛知県立一宮高等学校(計2校) 視察者 県立長岡明德高等学校 教頭、教諭 開志学園高等学校 教諭 (計3人)	
図書購入	図書名 冊数		
刊行物出版 研究成果	名称	実践収録59号	
	主な内容	令和4年度新潟県高等学校定時制通信制教育総合研究会 新潟県高等学校通信制教育研究会報告 他	
	冊数	350冊	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研定通部会 令和5年度事業計画

部長 小林 麻利子

研究会・講習会等の開催	目的	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進	
	期日	令和5年7月31日(月)	令和5年10月中旬～11月下旬で日程調整中
	場所	長岡市内(詳細な会場は未定) ※又はオンライン開催	県立新潟翠江高等学校
	研究会名称	令和5年度新潟県高等学校定時制通信制教育総合研究会新潟県高等学校通信制教育研究会	令和5年度新潟県高等学校教育研究会定通部会情報交換会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進 情熱と使命感あふれる教育活動の創造 「(未定)」	県内定時制通信制高等学校情報交換会
	講師職氏名	未定	
	研究発表 テーマ・職・氏名	①テーマ未定 県立佐渡高等学校相川分校教諭 ②テーマ未定 私立長岡英智高等学校教諭	①教務 ②生徒指導 ③進路指導 (予定)
	参加者数	120人	40人
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に	② ③ ④	① ⑥	
研究調査	主要テーマ	県外先進校視察(教育課程、生徒指導、特別支援教育など)	
	調査の期日 場所・参加者数	未定	
図書購入	図書名 冊数		
刊 研究 行 成果 物 内容 出 冊数 版	名称	実践集録60号	
	主な内容	上記定時制通信制教育総合研究会報告 等	
	冊数	350冊	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

令和4年度新潟県高等学校教育研究会理事会（書面審議）録

<理事会書面審議>

6月6日（月）

- ・「令和4年度 高教研理事会」書面審議資料をメールにて送付

6月13日（月）

- ・令和4年度新潟県高等学校教育研究会に係る審議事項の結果について下記により（報告）

記

県高等学校教育研究会 役員様	高教研第6号 令和4年6月13日
	県高等学校教育研究会会長 県立新潟南高等学校長 勝山宏子
令和4年度新潟県高等学校教育研究会に係る 審議結果報告および運営に係る連絡	
日頃より、当会の運営に御協力いただき感謝申し上げます。 さて、標記について御報告するとともに、本年度の運営に関し連絡申し上げます。	
1 令和4年度新潟県高等学校教育研究会に係る審議事項について 理事会において御審議いただきありがとうございました。令和4年度の審議事項につきましては、次のようになりましたので御報告いたします。	
<審議結果>	
1. 令和3年度事業報告 2. 令和3年度決算報告 3. 令和4年度役員（案） 4. 令和4年度委員および会員数 5. 令和4年度事業計画（案） 6. 令和4年度予算（案）	承認 承認 承認 承認 承認 承認

令和4年度の活動から

1 研究会等

今年度も、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、各部会の特色や現状に応じて研究会（講習会・見学会・発表等）が実施されました。詳細については一覧を御覧ください。

2 研究助成等に関して

近年は会員数の減少傾向が続いております。それに伴う会費収入の減少のため、予算は厳しい状況が続いております。このような状況の中で一般財団法人新潟県教職員厚生財団様及び公益財団法人日本教育公務員弘済会新潟支部様からは、多額の助成をいただいております。紙面を借りて改めて感謝申し上げます。

3 会の運営について

(1) 高教研ホームページについて

平成26年8月に開設した高教研ホームページですが、各部会から積極的に御活用いただけるよう取り組んでおります。各部会の事業の内容や研究成果及び刊行物等を掲載し、部会の研究成果を広く発信するなど、ホームページの活用をお願いいたします。また事務局におきましても、郵送コスト圧縮のために、メールとホームページを積極的に活用して経費を節減しております。各種様式をホームページからダウンロードすることで、各部会等との連携強化と運営の効率化を図っています。今後も有効に活用くださるようお願いいたします。

新潟県高等学校教育研究会ホームページ	http://www.kokyoken.nein.ed.jp/
--------------------	---

(2) 会員募集方法について

加入申込については、電子メールによる申込とし、また、入会費の納入に係る「振込依頼書」は郵送にてお届けしました。次年度に向け、申込み方法や期限などを明確にお伝えできるよう改善していきたいと考えております。

年度始めの御多用の中、各校において当会への加入に係るお声かけや加入申込み業務を行っていただき感謝申し上げます。

(3) 会計取扱要領について

会計の適正な執行及び透明性確保の観点から、平成29年度に「部会会計取扱要領」を定め施行しています。これに則り、適切な運用に御協力いただき感謝申し上げます。

今後、各部会のよりよい運営といった観点で、「部会会計取扱要領」等について見直し改善を進めていきたいと考えています。

4 高教研の活性化について

今年度から「情報部会」の活動が始まりました。昨年度に「規約」を改正し、非常勤講師等の研修への手立てなど、組織全体に係る改定を行いました。これからも、本会が更によりよいものとなれるよう事務局運営に努めてまいります。

各部会におかれましては、時代に即した研究や協議を深めていただくとともに、その成果・情報を年報や高教研ホームページ等も活用しながら広く発信いただき、多くの先生方への加入に繋げていただければと思います。

（文責・幹事：新潟南高等学校 教頭 佐藤 俊）

令和4年度 収支決算書

収入の部

区 分	当初予算額(a)	最終予算額	決算額(b)	比較増減(b-a)	摘 要
会 費	2,930,000		2,942,000	12,000	年額一人¥2,000×1,465人 (追加会員¥2,000×6人)
助 成 金	825,000		825,000	0	厚生財団(40万円)・教育公務員弘済会(25万円) (当初)外部団体から部会へ補助 (数学1万円・家庭1.5万円・視聴覚4万円・定通11万円)
雑 収 入	780		827	47	(当初)地歴公民(R3決算後返金780円)、本部利息(37円)、部会利息(10円)
前期繰越金	174,221		174,221	0	事務局関係費・予備費繰越
繰越金 (積立含む)	7,170,407		7,170,407	0	
合 計	11,100,408		11,112,455	12,047	

支出の部

I 部会別

区 分	当初予算額 (積立金を含む)	最終予算額(a) (積立金を含む)	決算額(b)	次年度積立金 (a-b)	摘 要					備 考
					研究大会	研究調査	研究図書	研究成果刊行	その他	
1. 国 語	460,172	460,172	242,322	217,850	44,974	1,548	0	195,800	0	
2. 地歴公民	431,283	431,283	262,820	168,463	146,880	0	0	115,940	0	(当初)H3年度会場キヤ ン返金(¥780)
3. 数 学	1,323,838	1,323,838	494,045	829,793	374,045	0	0	120,000	0	(当初)外部団体補助金 (¥10,000)
4. 理 科	715,342	715,342	206,726	508,616	109,706	0	0	97,020	0	
5. 芸 術	546,999	546,999	200,826	346,173	199,444	0	0	0	1,382	
6. 英 語	2,023,577	2,023,577	208,845	1,814,732	161,495	0	0	27,350	20,000	
7. 農 業	419,087	419,087	164,489	254,598	39,247	0	0	125,242	0	
8. 工 業	642,881	642,881	189,345	453,536	99,345	0	0	90,000	0	
9. 商 業	188,000	188,000	188,000	0	88,000	0	0	100,000	0	
10. 水 産	319,748	319,748	191,034	128,714	63,368	0	92,466	35,200	0	
11. 家 庭 科	593,000	593,000	258,000	335,000	158,040	0	0	99,960	0	(当初)外部団体補助金 (¥15,000)
12. 保健体育	889,510	889,510	185,179	704,331	185,179	0	0	0	0	
13. 情 報	175,000	175,000	39,728	135,272	37,728	0	2,000	0	0	
14. 生徒指導	536,647	536,657	133,230	403,427	33,145	1,965	0	98,120	0	(最終)利息(¥10)
15. 図 書 館	584,236	584,236	215,987	368,249	120,987	0	0	95,000	0	
16. 視 聴 覚	267,912	267,912	173,034	94,878	18,032	94,272	16,840	40,000	3,890	(当初)NHK助成金 (¥40,000)
17. 定 通	830,955	830,955	443,292	387,663	158,160	152,902	0	132,230	0	(当初)外部団体補助金 (¥110,000)
本部関係	52,221	52,221	53,876	△ 1,655	0	0	0	0	53,876	
予備費	100,000	112,037	0	112,037	0	0	0	0	0	(最終)本部利息(¥37) 追加会費(¥12,000)
合 計	11,100,408	11,112,455	3,850,778	7,261,677	2,037,775	250,687	111,306	1,371,862	79,148	

II 費目別

区分	当初予算額	最終予算額(a)	決算額(b)	次年度積立金(a-b)	摘要
1. 研究大会費	3,446,312	3,446,312	2,037,775	1,408,537	
謝金	814,561	814,561	611,424	203,137	
旅費	573,420	573,420	109,937	463,483	
使用料及び貸借料	811,380	811,380	604,390	206,990	会場使用料・設備使用料等
資料費	346,099	346,099	151,250	194,849	
通信運搬費	585,852	585,852	347,357	238,495	送料, 手数料等
賃金	140,000	140,000	132,334	7,666	テープ起こし
会議費	175,000	175,000	81,083	93,917	茶, 茶菓子等
2. 研究調査費	408,500	408,500	250,687	157,813	
資料費	145,000	145,000	60,830	84,170	
通信運搬費	149,500	149,500	152,902	△ 3,402	
会議費	114,000	114,000	36,955	77,045	
3. 研究図書購入費	163,600	163,600	111,306	52,294	
4. 研究成果刊行費	1,931,990	1,931,990	1,371,862	560,128	
5. その他	4,997,785	4,997,785	25,272	4,972,513	
6. 本部関係費	52,221	52,221	53,876	△ 1,655	
事務費	22,221	22,221	31,876	△ 9,655	送料, 手数料
会議費	10,000	10,000	0	10,000	
刊行費	20,000	20,000	22,000	△ 2,000	R3年度製本代
7. 予備費	100,000	112,047	0	112,047	※当初予算額からの変動分を調整 (利息:本部¥37 部会¥10、追加会員¥12,000)
合計	11,100,408	11,112,455	3,850,778	7,261,677	

収入決算額 11,112,455

支出決算額 3,850,778

次年度繰り越し 7,261,677 (各部会次年度積立金含む)

令和4年度 高等学校教育研究会役員

会 長	勝山 宏子 新潟南								
副 会 長	小竹 聖一 新潟中央				灰野 正宏 新発田				
	鈴木 勇二 長 岡				山田 喜昭 高 田				
	森川 幸彦 佐 渡								
顧 問	小川 正樹 新 潟								
部 会									
No.	部 会 名	部 長	副 部 長					部会幹事	
1	国語	萱森 茂樹 燕中等	北岸 信治 卷	川上 豪 三条東	坂元 淳子 白根	小林 靖明 新潟中央		原 宏志 燕中等	
2	地歴公民	早川 勝志 糸魚川	高見 由光 中条	佐藤 浩 吉田	鈴木 健一 小出	川合 克彦 有恒		中村 崇志 新潟向陽	
3	数学	内田 卓利 三条	横堀 正晴 新潟北	小林 英明 新津	南方 伸之 小出	奥田 優 柏崎常盤	夏見 康彦 糸魚川白嶺	神崎 直利 三条	
4	理科	伊藤 大助 阿賀黎明	岩崎 啓 松代	頓所 裕史 新潟向陽	小見 浩之 長岡大手	瀬下 学 新潟南		永嶋 恵 阿賀黎明	
5	芸術	小堀 さとみ 新津南	小野 由紀子 新潟西	小熊 直子 卷	長津 綾子 直江津中等			(音)高野めぐみ 長岡向陵 (美)中條由美 上越総合技術 (書)松本直美 小千谷西	
6	英語	保坂 哲 高田北城	平山 剛 村上	石積 希 直江津中等	白藤 恵一 佐渡中等	名川 由里子 川西高等特別支援	吉田 桃子 正徳館	長谷川 誠 高田	
7	農業	椎谷 一幸 加茂農林	村山 英司 新発田農業	村山 和彦 長岡農業	阿部 慎 高田農業			廣瀬 久人 加茂農林	
8	工業	長井 英幸 長岡工業	住吉 宏 新津工業	堀内 義博 新潟県央工業	中川 誠一 上越総合技術			渡邊 幸弘 長岡工業	
9	商業	仲野 孝 新潟商業	大島 博文 長岡商業	桐原 宏史 高田商業	須戸 修 新発田商業			釜田 浩文 新潟商業	
10	水産	増田 てつ志 海洋	山崎 勇 海洋					増田 真之介 海洋	
11	家庭	佐藤 一彦 長岡大手	丸山 綾子 荒川	小林 麻利子 新潟翠江	奥田 優 柏崎常盤			小田 真由美 長岡大手	
12	保健体育	武藤 俊昭 十日町	岩井 智幸 新発田南	薄 一俊 長岡明德	水野 宏志 小千谷	藤澤 裕二 荒川	池 裕司 十日町	高橋 広文 十日町(定)	
13	情報	吉川 保 柏崎	堀内 義博 新潟県央工業	吉田 保夫 村上中等	立川 純 国際情報	羽二生 大輔 高田		関川 裕介 新潟江南	
14	生徒指導	北岸 信治 卷	外山 徹宏 村松	丸山 綾子 荒川	徳永 和教 三条商業	阿部 慎 高田農業		南波 雪恵 卷	
15	図書館	菊池 啓一 塩沢商工	森川 幸彦 佐渡	須戸 修 新発田商業	夏見 康彦 糸魚川白嶺			高橋 正明 塩沢商工	
16	視聴覚	須藤 浩 六日町	夏見 康彦 糸魚川白嶺					野村 信夫 新発田農業	
17	定通	小林 麻利子 新潟翠江	丸山 綾子 荒川	薄 一俊 長岡明德	諸橋 孝二 高田南城	森川 幸彦 佐渡	藤本 洋則 開志学園	上村 正子 新潟翠江(定)	
会計監査委員	藤田 純子 新潟商業	江村 大成 市立明鏡	浦部 頼之 新潟東						(敬称略)
事務局 (新潟南)	佐藤 俊	齋藤 和仁	小武 鉄平	鈴木 めぐみ	仁多見 翔	渡邊 陽子	常石 ゆかこ		

部会幹事および部会員数

No.	部会名	部会幹事		会員数	No.	部会名	部会幹事		会員数
1	国語	原 宏志	燕中等	139	8	工業	渡邊 幸弘	長岡工業	125
2	地歴公民	中村 崇史	新潟向陽	135	9	商業	釜田 浩文	新潟商業	80
3	数学	神崎 直利	三条	201	10	水産	増田 真之介	海洋	61
4	理科	永嶋 恵	阿賀黎明	168	11	家庭	小田 真由美	長岡大手	117
5	芸術	(音)高野めぐみ	長岡向陵	54	12	保健体育	高橋 広文	十日町(定)	69
		(美)中條 由美	上越総合技術		13	情報	関川 祐介	新潟江南	66
		(書)松本直美	小千谷西		13	生徒指導	南波 雪恵	巻	183
6	英語	長谷川 誠	高田	208	14	図書館	高橋 正明	塩沢商工	52
7	農業	廣瀬 久人	加茂農林	126	15	視聴覚	野村 信夫	新発田農業	23
					16	定通	上村 正子	新潟翠江(定)	139

会計監査委員

新潟商業	市立明鏡	新潟東
藤田 純子	江村 大成	浦部 頼之

事務局幹事

新潟南		
佐藤 俊	齋藤 和仁	鈴木 めぐみ
小武 鉄平	鈴木 めぐみ	渡邊 陽子
仁多見 翔	常石 ゆかこ	

令和4年度 委員および学校別会員数(実人数)

地区	学番	学校名	委員氏名	人数	地区	学番	学校名	委員氏名	人数
新潟	1	新潟	松井 武文	41	魚沼	50	小千谷	水野 宏志	6
	2	新潟中央	吉田 昌生	34		51	小千谷西	徳永美智子	15
	3	新潟南	佐藤 俊	13		52	堀之内	行方 美幸	8
	4	新潟江南	小日向 史	8		53	小出	鈴木 健一	6
	5	新潟西	渡邊 優子	9		54	国際情報	立川 純	11
	6	新潟東	浦部 頼之	10		55	六日町	内山 崇	7
	7	新潟北	松縄 恒彦	4		56	八海	渡邊 修二	7
	8	新潟工業	藤澤 満	34		57	塩沢商工	竹内 努	7
	9	新潟商業	山中 政一	25		58	十日町	藤岡 英之	11
	10	新潟向陽	柳澤 裕一	10		58	松之山分校	渡辺 新太郎	1
	11	新潟翠江(定)	上村 正子	12		59	十日町総合	瀧澤 琢也	21
	11	新潟翠江(通)	小林 賢史	8		60	松代	佐藤 一正	3
	12	巻	河内 一修	22		中等4	津南中等	志賀 大介	10
	13	巻総合	柴宮 秀生	21		特5	川西特別支援	名川 由里子	1
	14	豊栄	加納 直恵	6		61	柏崎	阿部 英敬	13
	15	新津	真貝 康広	15		62	柏崎常盤	永井 大円	9
	16	新津工業	笠原 正博	12		63	柏崎総合	山口 活水	6
17	新津南	入倉 哲志	4	64	柏崎工業	宮澤 雅樹	10		
18	白根	富田 紀男	4	65	出雲崎	安澤 和晃	5		
市1	万代	鹿俣 譲	23	私14	新潟産大付属	高倉 聡	9		
市2	明鏡	江村 大成	11	中等2	柏崎翔洋中等	佐藤 貴亮	10		
市中等1	高志中等	高橋 大輔	6	66	高田	羽二生 大輔	22		
特1	新潟よつば学園		0	66	高田 安塚分校	滝澤 祐樹	3		
特16	東新潟特別支援		0	67	高田北城	菅 一典	17		
私1	新潟明訓	内野 信昭	66	68	高田南城(定)	金山 朋宏	6		
私2	北越	船木 和久	21	68	高田南城(通)	児玉 悟	1		
私3	新潟青陵	富田 学	13	69	高田農業	緒形 忠大	26		
私5	敬和学園	浅妻 和章	1	70	上越総合技術	矢代 譲	26		
私6	新潟第一	宮田 佳則	20	71	高田商業	佐藤 直人	9		
私7	東京学園新潟	曾我 秀哉	59	72	久比岐	矢坂 英也	2		
私8	日本文理	星野 透	12	73	有恒	西川 昌宏	3		
私17	開志学園	小嶋 健慈	6	74	新井	桑原 文博	10		
新潟	19	五泉	櫻井 武史	7	75	糸魚川	太田 修	6	
	20	村松	射場 政人	5	76	糸魚川白嶺	青山 淳	7	
	21	阿賀黎明	本保 正佳	4	77	海洋	山崎 勇	18	
	22	新発田	斎藤 直人	27	中等5	直江津中等	長津 綾子	14	
	23	西新発田	馬場 宏	6	私15	上越	風間 秀行	8	
	24	新発田南	大倉 守正	29	私16	関根学園	西嶋 俊文	12	
	25	新発田農業	沢田 貴博	23	78	佐渡	川上 史人	12	
	26	新発田商業	梅田 均	9	78	相川分校	中村 公紀	2	
	27	村上	渡邊 幸晴	4	79	羽茂	柿崎 宏行	4	
	28	村上桜ヶ丘	楢 貴志	8	80	佐渡総合	徳永 伸英	23	
	29	荒川	藤澤 裕二	10	中等6	佐渡中等	馬場 隆史	10	
	30	中条	高見 由光	4		県立教育センター	遠藤 浩	19	
	31	阿賀野	荻野 美和子	5		行政(県庁内各課)	千葉 知樹	29	
	特7	村上特別支援		1		生徒指導課	土田 謙吾	6	
	私12	新発田中央	上山 裕二	12		文化課	高橋 有香	1	
	私13	開志国際	和泉 哲三	4		合計	計	1465	
	中等1	村上中等	近藤 美津子	8					
新潟	32	長岡	杉山 礼	22					
	33	長岡大手	荒井 美鈴	21					
	34	長岡向陵	樋口 猛	12					
	35	長岡明德	鈴木 和也	12					
	36	長岡農業	熊木 秀徳	30					
	37	長岡工業	小池 茂樹	18					
	38	長岡商業	加藤 伸泰	9					
	39	正徳館	吉田 桃子	3					
	40	栃尾	波多野 隆	11					
	41	見附	高野 大	7					
	特2	長岡聾	三村 陽子	6					
	私9	帝京長岡	小熊 牧久	10					
	私10	中越	竹内 拓	13					
	私19	長岡英智	岩下 隆志	17					
	三条	42	三条	鈴木 信行	14				
		43	三条東	早川 昌	8				
		44	新潟県央工業	一本鎗 裕	13				
45		三条商業	杵鞭 義孝	11					
46		吉田	関澤 徹	6					
47		分水	佐藤 直之	3					
48		加茂	清水 秀樹	6					
49		加茂農林	石田 清彦	34					
中等3		燕中等	本間 康一	14					
私11		加茂暁星	坂田 洋史	8					
特19		吉田特別支援	片桐 隆	1					

新潟県高等学校教育研究会規約

第1章 総 則

第 1 条 この会は、新潟県高等学校教育研究会といい、事務局を会長在任校におく。

第 2 条 この会は、新潟県の高等学校教育を振興発展させることを目的とする。

第 3 条 この会は、前条の目的を達成するために、下記の事業を行う。

1. 高等学校教育に関する調査研究
2. 研究協議会・講習会・講演会・展覧会等の開催、研究誌・機関紙の発行
3. 会員の研究に対する援助
4. その他この会の目的達成に必要な事項

第2章 組 織

第 4 条 この会は、新潟県にある高等学校の教職員およびこれに準ずるもので組織し、次の部会をおく。

- | | | |
|-----------|--------------|------------|
| 1. 国語部会 | 2. 地理歴史・公民部会 | 3. 数学部会 |
| 4. 理科部会 | 5. 芸術部会 | 6. 英語部会 |
| 7. 農業部会 | 8. 工業部会 | 9. 商業部会 |
| 10. 水産部会 | 11. 家庭科部会 | 12. 保健体育部会 |
| 13. 情報部会 | 14. 生徒指導部会 | 15. 図書館部会 |
| 16. 視聴覚部会 | 17. 定通部会 | |

第3章 機 関

第 5 条 この会は、次の機関をおく。

1. 理事会
2. 委員会
3. 部長会
4. 部会委員会

第 6 条 理事会は、この会の決定機関であって、次のことを決める。

1. 規約の決定並びに改正に関すること。
2. 事業計画に関すること。
3. 予算の決定、決算の承認に関すること。
4. 財産および基金の処分に関すること。

- 5. 役員の設定に関する事。
 - 6. 他団体への加入脱退に関する事。
 - 7. この会の解散に関する事。
 - 8. その他必要な事項に関する事。
- 第 7 条 理事会は、理事で構成し、毎年開催する。臨時理事会は、会長が必要と認めるとき、会長が招集する。
- 第 8 条 理事には、会長・副会長・各部会の部長 1 名および理事会で必要と認められた若干名がある。
- 第 9 条 委員会は、この会の執行機関であって、次の任務権限を持つ。
- 1. 理事会から委任された事項の審議執行に関する事。
 - 2. 理事会に提出する議案に関する事。
 - 3. 緊急事項の処理に関する事。
- 第 10 条 委員会は、委員で構成し、毎年開催する。臨時委員会は、会長が必要と認めるとき、会長が招集する。
- 第 11 条 委員会の議長は、そのつど構成員の中から選出する。
- 第 12 条 部長会は、連絡機関であって、理事会と各部会および部会相互間の連絡にあたる。
- 第 13 条 委員会および部長会は、委任状を持参した代理人を認める。
- 第 14 条 理事会・委員会・部長会の会議は、構成員の 2 分の 1 以上の出席で成立する。
- 第 15 条 部会委員会は、部長・副部長・部会幹事および校内部会代表をもって構成する。
- 第 16 条 部会委員会は次の任務権限をもつ。
- 1. 専門的事項について調査研究する。
 - 2. 専門的事項について委員会に提案する。
 - 3. 専門的事項についての業務を執行する。
- 第 17 条 部会委員会は、必要に応じ、会長に連絡して、部長が招集する。
- 第 18 条 部会は、必要により、学科または科目別あるいは地区別に分会を設けることができる。
- 第 19 条 部会の細則は、各部会ごとに作成して会長に届け、委員会の承認を得るものとする。

第 4 章 役 員

- 第 20 条 この会には、次の役員をおく。
- | | | | |
|-----------|-------|------------|-------------|
| 1. 会長 | 1 名 | 2. 副会長 | 5 名 |
| 3. 部長 | 各 1 名 | 4. 副部長 | 若干名 |
| 5. 理事 | | 6. 委員 | 各校 1 名 |
| 7. 会計監査委員 | 3 名 | 8. 幹事 | 若干名 |
| 9. 部会幹事 | 各 1 名 | 10. 校内部会代表 | 各校内の部会各 1 名 |
| 11. 顧問 | | | |

第 21 条 役員の仕事権限は、次の通りである。

1. 会長は、この会を代表し、会務執行の責任を負う。
2. 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときはその任を行う。
3. 部長は、その部会を代表し、部会の業務を統理する。
4. 副部長は、部長を補佐し、部長事故あるときはその任を行い、各地区別部会との連絡にあたる。
5. 理事は第 6 条によりその任を遂行する。
6. 委員は、各校内の意見を代表し、第 9 条によりその任を遂行する。
7. 会計監査委員は、会計を監査し、委員会に報告する。
8. 幹事は、この会の事務を処理する。
9. 部会幹事は、各部会の事務を処理する。
10. 校内部会代表は、各校内部会の事務を処理する。
11. 顧問は、会長の諮問に応ずる。

第 22 条 役員の出法は、次の通りとする。

1. 会長・副会長・部長・副部長は、理事会で会員の中から推薦し、委員会で承認する。
2. その他の理事は、必要により理事会で推薦し、委員会で承認する。
3. 委員は、各学校から 1 名選挙する。
4. 会計監査委員は、委員会で互選する。
5. 幹事は、委員会の承認を経て会長が委嘱する。
6. 部会幹事は、各部会の推薦により、会長が委嘱する。
7. 校内部会代表は、各校内部会で互選する。
8. 顧問は、委員会の推薦を経て会長が委嘱する。

第 23 条 役員の仕事期間は、2 年とし、次期改選まではその任を行い、重任してもよい。

欠員の補充で就任した者の仕事期間は、前任者の残りの期間とする。

第 5 章 会 計

第 24 条 この会の仕事費は、会費・補助金・寄付金等による。ただし、寄付金および寄付物件の受理は、委員会の承認を要する。

会費は、毎年 5 月 1 日までに各学校ごとに委員がまとめ、部会別会員名簿をそえて事務局に送付するものとする。

第 25 条 この会の仕事年度は、毎年 4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終わる。

第6章 雑 則

第26条 この会に入会しようとするときは、所属部会を明記し、各学校ごとにまとめて、会長に通告する。

第27条 この会の規約を実施するために必要な規定は、別に定める。

第7章 附 則

第28条 この規約は昭和23年10月15日から実施する。

2. 昭和61年6月9日改正施行する。
3. 平成2年6月8日改正施行する。
4. 平成7年5月31日改正施行する。
5. 平成23年6月17日改正施行する。
6. 平成24年6月22日改正施行する。
7. 令和元年5月27日改正施行する。
8. 令和3年11月1日改正施行する。

事務局日誌抄

日付

令和4年	4月1日	令和4年度新潟県高等学校教育研究会役員交代・補充について（依頼）	メールにて送付
	4月1日	令和4年度高教研会員募集について	メールにて送付
	4月1日	部会会計の取扱要領について（お知らせ）	メールにて送付
	4月1日	令和4年度高教研会員募集に係る振込依頼書の発送	募集案内校へ郵送
	4月15日	新潟県高等学校教育研究会会計監査委員の派遣について（依頼）	メールにて送付
	4月20日	令和3年度の県高等学校教育研究会会計監査の実施	本校応接室にて開催
	5月13日	公益財団法人 日本教育公務員弘済会新潟支部へ令和4年度「教育研究団体助成事業申請書」の送付	郵送にて申請
	5月24日	高教研年報61号送付	行政、理事宛に郵送
	5月27日	令和4年度高教研名簿の発送	メールにて送付
	5月31日	一般財団法人 新潟県教職員厚生財団より400,000円の助成	
	5月31日	一般財団法人 新潟県教職員厚生財団へ「令和3年度団体助成完了報告書」の送付	郵送により報告
	6月6日	令和4年度高教研理事会審議	書面開催文書（メールにて送付）
	6月13日	令和4年度高教研理事会審議結果（報告）	メールにて送付
	6月14日	令和4年度高教研委員会審議	書面開催文書（メールにて送付）
	6月15日	令和4年度高教研部会幹事連絡会に係る資料の送付	幹事業務文書・書類（郵送）
	6月20日	令和4年度高教研委員会審議結果（報告）	メールにて送付
	7月4日	「令和4年度全国農業高等学校長協会北信越支部総会・研究協議会及び第46回全国高等学校農場協会北信越支部大会」後援申請の回答	メールにて回答
	7月4日	公益財団法人 新潟県教育公務員弘済会より250,000円の助成	
	9月26日	一般財団法人 新潟県教職員厚生財団へ「令和5年度新潟県民のための教育・文化活動」団体助成を申請	郵送により申請
令和5年	1月5日	年度末に係る部会事務処理に関して（依頼）	メールにて送付
	2月15日	一般財団法人 新潟県教職員厚生財団より令和5年の「団体事業助成」承認の通知を受領	
	2月15日	公益財団法人 日本教育公務員弘済会新潟支部へ令和4年度「教育研究団体助成事業報告」の送付	郵送により報告
	2月下旬	『高教研年報』第62号の編集作業に着手	

（文責 県立新潟南高等学校 教頭 佐藤 俊）

編集後記

令和4年度の高教研の活動をまとめた「高教研年報第62号」をお届けいたします。

令和2年1月に初めて国内における新型コロナウイルスの感染報告がなされてから3年が過ぎます。令和4年度は多くの経済活動等が再開され、WITHコロナの時代が本格的に始まりました。

このような状況の中、今年度は、対面での研究・協議を実施していただいた部会が多くなりました。また、高教研の目的を遂行すべく、各部会の特色を踏まえ、リモートを活用するなど、多様な手法により研究・協議を実施していただきました。このことは各部の部長、副部長をはじめ関係の皆様様の御尽力があったからと、改めて感謝申し上げます。

また、今年度から、新たに「情報部会」の活動が始まりました。昨年度に「高教研規約」の改正を行い、事務局における改正も進めさせていただきました。このことにつきましても、皆様様の御理解と御協力いただきましたことに改めて感謝申し上げます。

令和4年度は、新学習指導要領がスタートし、共通必修科目「情報Ⅰ」が開始されるとともに、中学校で1人1台端末を活用した学びを経験した生徒が高等学校に入学してきました。高等学校においてもICT機器の本格活用が始まり、個別最適化した学びと、生徒の多様な教育ニーズに対応した学びの提供が必要になっています。

本会の役割は、変化する教育課題に対応しながら、新たな指導内容や指導方法といった教育の専門分野について、会員相互の情報交換や研修をとおして研究するものです。したがって、この経験を踏まえての本会の研究活動や成果は、今後益々重要となるものと考えます。

この年報は全部会の活動を掲載しております。探究的な学習やICTの活用など、多様な取組が深まりを見せる中、自身の取組の参考としていただくとともに、この高教研各部会の取組を一人でも多くの方々にお伝えいただき、高教研会員の裾野をさらに広げていって欲しいと思います。なお、年報は新潟県高等学校教育研究会ホームページにも掲載いたしますので、どうぞ御活用ください。

末筆になりますが、今年度も一般財団法人新潟県教職員厚生財団様及び公益財団法人日本教育公務員弘済会新潟支部様から研究費として御支援をいただき、各部会の研究の充実に充てさせていただいております。紙面を借りて感謝申し上げます。

今年度の高教研の運営に御尽力くださった関係の皆様方に深く感謝申し上げますとともに、本県高等学校の更なる発展を祈念して編集後記といたします。

